

大分短期大学
研究紀要
第22号

報 告

2022年度卒業生に対する卒業時アンケート結果

鍵和田又一

(大分短期大学 園芸科 自己点検・評価委員会) ……1

学生による授業評価 (令和4年度)

橋本裕輝・小野宣幸

(大分短期大学 園芸科 自己点検・評価委員会) ……6

令和4年度 大分短期大学生の学修・生活実態

小石鉄兵

(大分短期大学 園芸科 自己点検・評価委員会) ……15

学校法人 平松学園

大分短期大学

2022 年度卒業生に対する卒業時アンケート結果

鍵和田 又一

(大分短期大学 園芸科 自己点検・評価委員会)

Graduate questionnaire result

Matakazu Kagiwada

(The Board of Self-Inspection / Assessment, OITA JUNIOR COLLEGE)

要 約

2022 年度卒業生に対してアンケート調査を行った結果を報告する。2022 年度の大分短期大学卒業生 30 名を対象として卒業式前日にアンケート用紙を配布し、回答を願った。アンケートの回答人数は 28 名で、アンケート回収率は 93.3%であった。

「大学教育への取り組み」の(専門科目の講義・専門科目の実習・ゼミナール活動・就職・進路活動)、「大学教育の修得において」、「短大生活のなかで学んだ分野の有意義」、「短大卒業時点で知識能力はどの程度有意義」、「将来の進路決定における短大の役割」の(希望進路)においては非常に高く評価されている。

しかし、前年度、問題として挙げられた、①「大学教育への取り組み」の(学友会・サークル活動)の項目②「ゼミナール活動」において低下傾向③「学習成果の達成の評価」の「応用的専門知識」「応用的専門技能」の 2 項目の修得度が低いこと④「将来の進路決定における短大の役割」として、将来の進路をみいだせなかった学生が毎年 1～2 名いることなどにおいて改善傾向がみられていることより、本年度を継続し続けることができるかの確認が必要であると考えられる。

キーワード: 卒業生 アンケート 教育 進路 満足度 重要性

本調査の概要と目的

現代の大学では、社会の変化やそれに呼応して急激に変化する労働市場に対して、大学教育がどのように対応していくかを明確化することが求められているとともに、その成果が有益なものとなるように大学教育の質的な高度化が求められている。こうした要求に対して、大分短期大学では組織的な対応として、「卒業生に対するアンケート調査」を実施している。

今回、2022 年度卒業生に対してアンケート調査を行った結果を報告する。

調査対象者・調査方法

1. 調査対象者および回答数

2023 年 3 月に大分短期大学を卒業した 2022 年度

卒業生を対象として実施した。調査対象人数は、30 名であった。アンケートの回答人数は 28 名であった。よって、アンケート回収率は 93.3%であった。

2. 調査方法

卒業式前日にアンケート用紙を配布し、回答を願った。アンケートの内容は 2013 年度に自己点検・評価委員会で検討した内容をベースに 2020 年度自己点検で検討し、大分短期大学の学習成果をアンケート項目に取り入れた内容になっている。

3. アンケートの調査分析の論点

本アンケートは、卒業生からみた大学教育の意義を明らかにすることに主眼を置いているので、被験者には短大入学時から卒業時点までを振り返ってもらい回

答してもらった。アンケートは7問で構成されている(表10, 11, 12)。それらは以下の五つの視点を反映させたものである。なお、箇条書きの括弧内は、各項目に対するアンケートの質問番号を表している。

- 1) 短大生時代の取り組み (Q1, Q2 興味, Q3 興味)
- 2) 卒業後の生活における短大生活の意義 (Q2 有意義, Q3 有意義)
- 3) 学習成果の達成などの評価 (Q4)
- 4) 将来の進路決定における短大の役割 (Q5)
- 5) 現時点における短大生活の総合評価 (Q6)
- 6) 卒業生よりの大分短期大学の教育への意見・要望

集計結果

1. 短大生時代の取り組み (Q1, Q2 興味, Q3 興味)
 - 1) Q1 次のような授業に、あなたはどの程度まで熱心に取り組んでいましたか。

短大生生活のなかで大学教育への取り組みでは、「専門科目の講義」「専門科目の実習」「友人との交流」「ゼミナール活動」「就職・進路活動」の項目において、「熱心だった」「どちらかといえば熱心だった」と回答した者が80%以上を占めていた。しかし、「読書」の項目では「熱心だった」「どちらかといえば熱心だった」を選んだ者が40%程度であった。

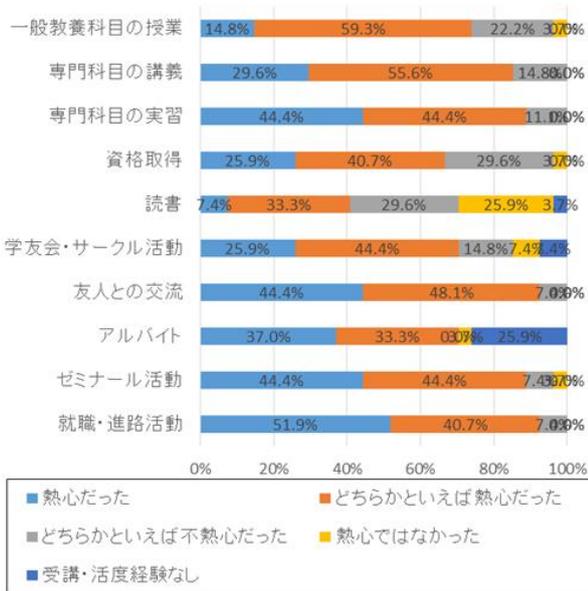


図1 短大生活において大学教育への取り組み状況
2) Q2 大分短期大学在学中、興味深いまたは面白いと感じた分野を教えてください。

短大生生活のなかで大学教育への興味では、「花」「野菜」「果樹」「作物」「園芸療法」の分野において、「興味深い」「どちらかという興味深かった」を選んだ者が80%占めていた。但し、その他の分野である「バイオ」

「造園」「林業」でも「興味深い」「どちらかという興味深かった」を選んだ者が70%以上であった。

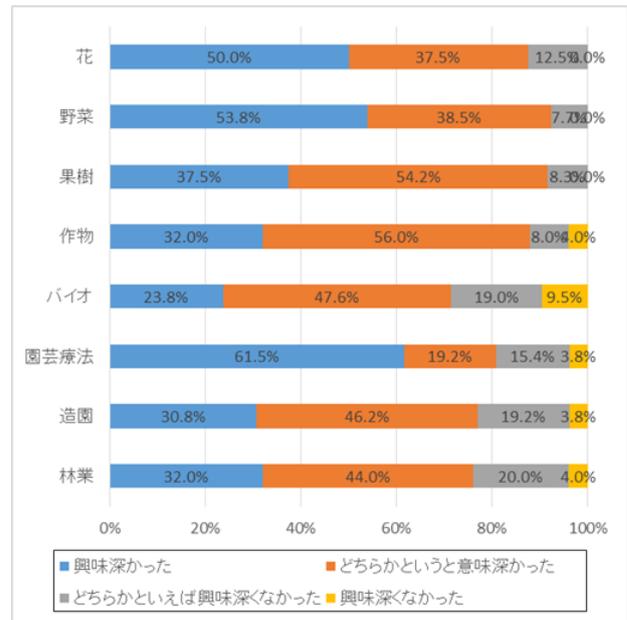


図2 大分短期大学在学中、興味深いまたは面白いと感じた分野

- 3) Q3 短大卒業時点で以下のような知識能力をどの程度身に付けることができましたか

短大生生活のなかで大学教育の修得では、全ての項目において「とても身についた」「やや身についた」を選んだ者が80%以上を占めていた。

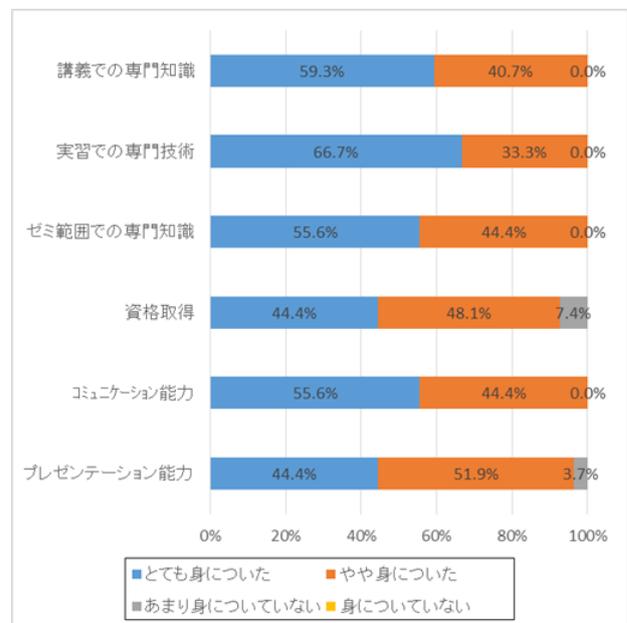


図3 短大卒業時における知識能力の修得度

2. 卒業後の生活における短大生活の意義 (Q2 有意義, Q3 有意義)

- 1) Q2 大分短期大学在学中、学んだ分野はどの程度有意義でしたか。

短大生活のなかで学んだ分野の有意義では、すべて

の分野]において「有意義だった」「どちらかといえば有意義」を選ぶ者が80%以上を占めていた。

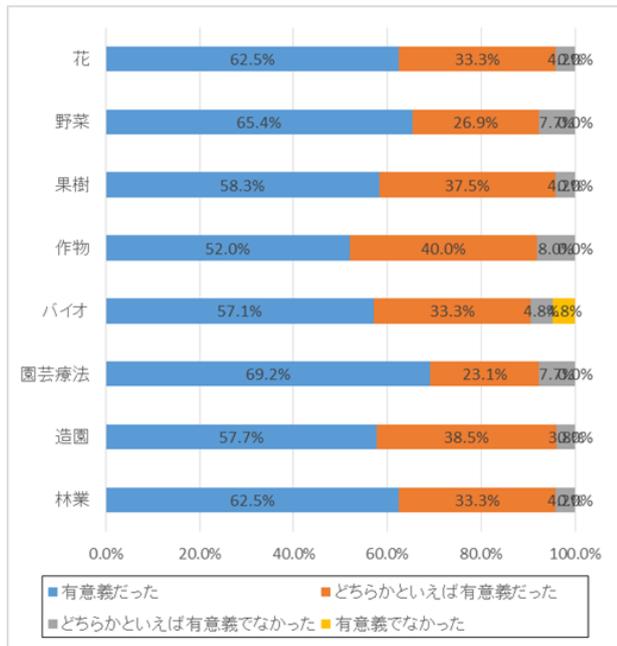


図4 短大で学んだ分野の有意義度

2) Q3 短大卒業時点で以下のような知識能力はどの程度有意義でしたか。

すべての項目において「有意義」「どちらかといえば有意義」と感じている者が100%であった。

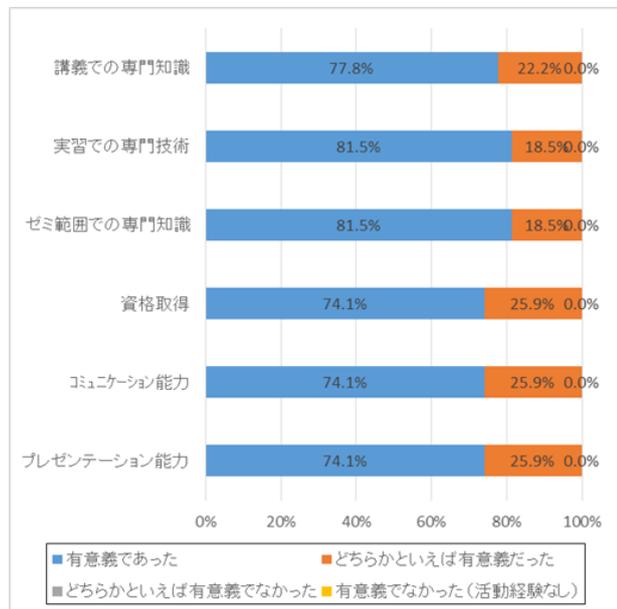


図5 短大で学んだ知識能力の有意義度

3. 学習成果の達成などの評価(Q4)

短大卒業時点で学習成果をどの程度身につけていますか。

すべての学習成果の項目において、「大いに思う」「まあまあ思う」と感じている者が80%以上を占めていた。

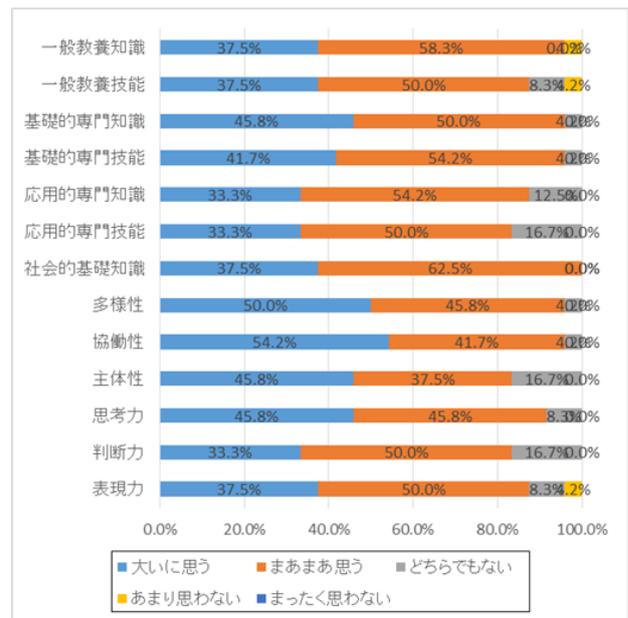


図6 学習成果の習得度

4. 将来の進路決定における短大の役割(Q5)

1)あなたは大分短期大学に入学する以前の段階で、将来の進路を決めていましたか

入学する以前の段階で、将来の進路について「はっきりと決めていた」が11.1%、「ある程度決めていた」が74.1%、「決めていなかった」が14.8%であった。したがって、入学時において85.2%の学生が将来への進路を決めて入学していた。

表1 短大入学時における将来の進路状況

	はっきり決めていた	ある程度まで決めていた	決めていなかった
人数	3	20	4
構成比	11.1%	74.1%	14.8%

2)「はっきり」「またはある程度まで決めていた方」のみ、その進路はどのようなものでしたか

将来の進路をある程度決めていた入学者の66.7%が4年生大学編入学である進学を希望していた。また、公務員は8.3%であった。さらに専門職を考えていた学生は8.3%であった。

表2 入学時における進学・就職割合

	4年生大学編入	公務員	専門職	その他民間企業
人数	16	2	2	4
構成比	66.7%	8.3%	8.3%	16.7%

3)「はっきり」「またはある程度まで決めていた方」のみ、あなたはその通りの進路に進みましたか

自分の希望していた進路に進んだ学生は82.6%であった。

表3 希望進路への割合

	その通り進んだ	異なる進路に進んだ
人数	19	4
構成比	82.6%	17.4%

4)「決めていなかった方」のみ、大分短期大学在学中に、将来の進路希望をみつけることができましたか

入学前に将来の進路が決まっていなかった学生のうち「見つけることができた」が60.0%で、「ある程度みつけることができた」が40.0%であった。

表4 在学中に進路希望を見いだせた割合

	見つけることができた	ある程度 見つけることができた	みつけられなかった
人数	3	2	0
構成比	60.0%	40.0%	0%

5. 現時点における短大生活の総合評価(Q6)

大分短期大学の人生における重要性は「重要だった」「やや重要だった」を選んだ卒業生が92.6%であった(表-6)。また、学生生活における満足度は、「満足だった」「やや満足だった」を選んだ学生が92.6%であった(表-7)。さらに、短大への進学を知人などに勧めるかにおいては、「勧める」「やや勧める」が88.9%であった(表-8)。

1)あなたの現在の人生・生き方を決めていく中で、どのくらいの重要性がありましたか

表6 人生における短期大学の重要度の割合

	重要だった	やや重要だった	どちらともいえない	あまり重要でなかった	重要でなかった
人数	17	8	2	0	0
構成比	63.0%	29.6%	7.4%	0%	0%

2)振り返ってみて、短大における学生生活は満足でしたか。

表7 学生生活を振り返っての満足度の割合

	満足だった	やや満足であった	どちらともいえない	あまり満足でなかった	満足でなかった
人数	18	7	2	0	0
構成比	66.7%	25.9%	7.4%	0.0%	0%

3)知人・友人もしくはあなたの子供に、短大に進学することを勧めますか

表8 卒業生が母校への進学推薦度の人数と割合

	勧める	やや勧める	あまり勧めない	勧めない
人数	14	10	3	0
構成比	51.9%	37.0%	11.1%	0.0%

4)今後の大分短期大学の教育において、なにかご意見・要望があればご自由にお書きください。(Q7)

自由記述欄に記述した内容はなかった

4. 考察(まとめ)

短大生活のなかでの大学教育への取り組みにい

て、2020年度から2022年度の調査結果と比較すると「専門科目の講義」「専門科目の実習」「就職・進路活動」の項目は高く、「読書」の項目では低いという同様の結果であった。しかし、「学友会・サークル活動」の熱心度に関しては前年まで50%程度を推移していたが70%まで上昇していたのは「友人との交流」を重要視しているように考えられる。

短大生生活のなかで大学教育への興味において、2019年度から2021年度の調査結果と比較すると「果樹」「野菜」「花」の分野が高く、「バイオ」「林業」「造園」の分野が低い傾向がみられるが、すべての分野で70%以上の学生が興味を抱いていることは良いことと考えられる。

短大生生活のなかで大学教育の修得において、2020年度から2022年度の調査結果と比較するとすべての項目に関して修得度が向上していることは教育内容が良くなっていると考えられる。

短大生活のなかで学んだ分野の有意義において、2022年度の調査結果より、すべての分野で「有意義であった」「どちらかといえば有意義であった」を選択した者が90%以上であった。このことは、充実していると考えられる。

短大卒業時点で知識能力はどの程度有意義において、2020年度および2021年度の調査で「資格取得」の項目において「どちらかといえば有意義でない」と感じている者が増加傾向であったが、2022年度の調査結果では100%有意義となっていることより、本学において「資格取得」も重要なことであると考えられる。

短大卒業時点で学習成果の達成の評価において、2020年度、2021年度では「応用的専門知識」「応用的専門技能」の達成度が低かったが、2022年度において80%以上の者が達成していると回答していることはより学習成果を理解しながら修得していると考えられる。

将来の進路決定における短大の役割として、2019年度から2021年度の調査結果から70%の学生が「その通りに進んだ」と回答したことより、短大としての役割は果たしていると考えられる。しかし、「進路がみつからなかった」と回答した学生がいる年度があるので、注視する必要が考えられる。

卒業生における短大生活の総合評価として、90%以上の学生が非常に良いと考えていることは、大分短期大学における大学生生活を総合的に振り返ったときの評価は非常に高いものと考えられる。

最後に、前年度、問題として挙げられた、①「大学教育への取り組み」の(学友会・サークル活動)の項目②

「ゼミナール活動」において低下傾向③「学習成果の達成の評価」の「応用的専門知識」「応用的専門技能」の2項目の修得度が低いこと④「将来の進路決定にお

ける学生が毎年1～2名いることなどにおいて改善傾向がみられていることより、本年度を継続し続けることができるかの確認が必要であると考えられる。

大分短期大学卒業生への質問項目

1. 次のような授業や活動に、あなたはどの程度まで熱心に取り組んでいましたか。

	熱心だった	どちらかといえば熱心だった	どちらかといえば不熱心だった	熱心ではなかった	記録・活動経験なし	
一般教養科目の授業	熱心度	5	4	3	2	1
専門科目の講義	熱心度					
専門科目の実習	熱心度					
資格取得	熱心度					
読書	熱心度					
学友会・サークル活動	熱心度					
友人との交流	熱心度					
アルバイト	熱心度					
ゼミナール活動	熱心度					
就職・進路活動	熱心度					

2. 大分短期大学在学中、興味深いまたは面白いと感じた分野を教えてください。また、どの程度有意義でしたか。

	興味深かった	どちらかといえば興味深かった	どちらかといえば面白かった	面白かった	記録せず	有意義だった	どちらかといえば有意義だった	どちらかといえば無意味だった	無意味だった	記録せず		
花	興味度	5	4	3	2	1	有意義	5	4	3	2	1
野菜	興味度						有意義					
果樹	興味度						有意義					
作物	興味度						有意義					
バイオ	興味度						有意義					
園芸療法	興味度						有意義					
造園	興味度						有意義					
林業	興味度						有意義					

3. 短大卒業時点で以下のような知識能力をどの程度身につけることができましたか。また、どの程度有意義でしたか。

	身につけた	身につけていない	有意義だった	どちらかといえば有意義だった	どちらかといえば無意味だった	無意味だった				
講義での専門知識	修得度	4	3	2	1	有意義	4	3	2	1
実習での専門技術	修得度					有意義				
ゼミの範囲での専門知識	修得度					有意義				
資格取得	修得度					有意義				
コミュニケーション能力	修得度					有意義				
プレゼンテーション能力	修得度					有意義				

4. 短大卒業時点で以下のような短期大学士力をどの程度身につけることができましたか。

	大いに思う	まあまあ思う	どちらでもない	あまり思わない	まったく思わない
1 社会科学と自然科学に関する基礎的な知識を修得している	5	4	3	2	1
一般教養知識					
2 社会科学と自然科学に関する基礎的な技能を修得している	5	4	3	2	1
一般教養技能					
3 専門分野に関する基礎的な知識を修得している	5	4	3	2	1
基礎的専門知識					
4 専門分野に関する基礎的な技能を修得している	5	4	3	2	1
基礎的専門技能					
5 専門分野に関する応用的な知識を修得している	5	4	3	2	1
応用的専門知識					
6 専門分野に関する応用的な技能を習得している	5	4	3	2	1
応用的専門技能					
7 論理感や社会的責任など生活や仕事に必要な基礎知識を修得している	5	4	3	2	1
社会的基礎知識					
8 多様な他者を理解し、協調・協働して課題に取り組むことができる	5	4	3	2	1
多様性					
協働性					
9 自ら課題を立て、課題解決に向けて計画し取り組むことができる	5	4	3	2	1
主体性					
思考力					
判断力					
10 他者に分かりやすく且つ的確に物事を伝えることができる	5	4	3	2	1
表現力					

る短大の役割」として、将来の進路をみいだせなかった

5. あなたは大分短期大学に入学する以前の段階で、将来の進路を決めていましたか。

a はっきりと決めていた b ある程度まで決めていた c 決めていなかった

① はっきり、またはある程度まで決めていた方のみ その進路はどのようなものでしたか

a) 4年制大学編入 b) 公務員 c) 専門職 (農業 園芸 造園 林業) d) その他民間企業 e) 自営

② はっきり、またはある程度まで決めていた方のみ あなたはその通りの進路に進みましたか

a) その通りの進路に進んだ b) 異なる進路に進んだ

③ 決めていなかった方のみ 大分短期大学在学中に、将来の進路希望を見つけることができましたか

a) 見つけることができた b) ある程度見つけることができた c) 見つけられなかった

6. 大分短期大学で過ごした学生時代の2年間についてお聞きします。

① あなたの現在の人生・生き方を決めていく中で、どのくらいの重要性がありましたか

a) 重要だった b) やや重要だった c) どちらともいえない d) あまり重要でなかった e) 重要でなかった

② 振り返ってみて、短大における学生生活は満足でしたか

a) 満足だった b) やや満足であった c) どちらともいえない d) あまり満足でなかった e) 満足でなかった

③ 知人・友人もしくはあなたの子供に、短大に進学することを勧めますか

a) 勧める b) やや勧める c) あまり勧めない d) 勧めない

7. 今後の大分短期大学の教育について、なにかご意見・要望があればご自由にお書き下さい。

学生による授業評価(令和4年度)

橋本 裕輝・小野 宣幸
(大分短期大学自己点検・評価委員会)

Student Evaluation of Teaching in 2022

Yuki HASHIMOTO, Nobuyuki ONO
(The Board of Self-Inspection/Assessment, OITA JUNIOR COLLEGE)

要旨

授業の現状の理解と改善を目的とし、令和4年度の前期後期に開講した全ての授業について、学生による授業評価を実施した。

その結果、学生による授業評価は1, 2年前後期を通して多くの科目が高く評価されていた。自己評価では予習復習、課題・発表への取り組みを改善していく必要がある。教授法では板書、パワーポイント、DVD、プリント等と教科書・参考書の使用について学生間で認識の差があった。今回の結果を各科目の担当教員にフィードバックし、これからの授業の改善に活用する。

Key word: 授業評価 アンケート 授業改善

緒言

本学では学生による授業評価を平成16年度から毎期実施しており、授業の改善に役立っている。本報告では令和4年度の授業評価の結果について報告する。

調査方法

令和4年度の学生による授業評価を、学生を対象として本学で開講された全ての科目(講義、演習、実験実習、実技科目を含む)に対して実施した。前後期とも全授業終了後、1, 2年生の全学生が履修した授業についてアンケートにより評価した。

アンケートの質問は12項目で、各項目を3段階または4段階評価とした。各項目に理由を記入する欄を設けた。その他、学生の率直な意見がきけるように自由記述欄を設定した(図 1)。なお、表の数値は小数点第一位を四捨五入した。

結果および考察

アンケートの回収率は1年の前期では97%、後期では100%であった。2年の前期では99%、後期では99%で

あった。アンケート結果を表1~8に示す。

1. 1年生対象科目の評価

1)自己評価(自身の授業への取り組み)(表 1,表 2)

問1の出席状況についての評価は、前期では「全出席」と答えた学生の割合が平均75%と高く、出席は良好であった。後期では「全出席」の割合が平均71%とわずかに減り、「ときどき休んだ」の割合がわずかに高くなった。

問2の予習復習については、「普通」の割合が前期で平均55%と最も高かった。特に、人一農業・園芸・環境論の森班と川班では「意欲的」の割合が50%以上と高かった。人一農業・園芸・環境論はアクティブラーニングで行われる講義であったため、他の教科と比べて「意欲的」の割合が高かった。この授業は他の通常の授業とは違い、授業のほぼ全てを自分たちで行わなければならない。準備や予習が欠かせないものだったためと考えられる。後期は前期よりも「意欲的」が平均29%から37%と高くなった。「意欲的」が英語と管理実習Ⅱで約70%、造園演習が80%と特に高かった。管理実習Ⅱと造園演

習は資格取得に必要な科目であったためと考えられる。英語に関しては編入試験に必要な科目であるため、必要性が高かったためと考えられる。

しかし、シラバスには授業以外の学習として予習・復習などの具体的な内容と必要な時間が記載されているにも関わらず、「意欲的」の割合が低かった。

今後、予習復習を踏まえた授業を展開することで、予習復習をしないといけない環境を作り、意欲的に勉強を促すことで、モチベーションのアップに繋がるような対策をしていかねばならないと考える。

問3の課題・発表への取り組みについては、前期、後期とも「意欲的」が平均約58%以上と高かった。特に前期では森林経営、人―農業・園芸・環境論の果樹班が100%以上と「意欲的」の割合が最も高かった。後期では造園演習が100%以上と評価が高かった。

問4の学習成果の達成については、前期・後期とも、ほとんどの科目で80%以上の学生が学習成果を達成したと感じていた。特に前期では100%の科目が多くみられた。後期では80%の科目が多くみられた。後期では専門的な科目が増えたためと思われる。

2) 授業評価(教授法の評価)(表3,表4)

問5の担当教員の意欲については、「意欲的」の割合が前期で平均64%、後期で平均85%であった。特に、前期の、人―農業・園芸・環境論の花班、果樹班、川班、生花Ⅰ、後期の生花Ⅱ、管理実習Ⅱ、造園演習が100%と最も意欲的と評価された。

問6の教員の言葉については、「聞き取りやすい」の割合が前期で平均62%、後期で平均80%であった。特に、前期の、人―農業・園芸・環境論の花班、川班。後期の英語Ⅱ、花卉装飾学演習、造園演習、管理実習Ⅱが100%と高く評価された。

問7のわかりやすく説明していたかについては、「わかりやすい」の割合が前期で平均61%、後期で平均77%の科目が多かった。特に前期の人―農業・園芸・環境論の花班、川班が100%、後期の生花Ⅱ、花卉装飾学演習、管理実習Ⅱ、造園演習が100%と高く評価された。平均が前期よりも後期の数値が16%も高くなったことについて、前期よりも専門用語が分かるようになり、授業が理解しやすくなったためと思われる。

問8の学生の私語や居眠りに対するの対応については、「適切だった」の割合が前期で平均59%、後期では平均70%であった。特に、前期では人―農業・園芸・環境論の花班が100%、後期では花卉装飾学演習が100%と「適切だった」の割合が高かった。

問9の板書、パワーポイント、DVD、プリント等の使用については「適切だった」の割合が前期で平均67%、後期で平均84%であった。特に、前期では人―農業・園芸・環境論の畜産班が100%であり、後期では測量、造園演習、管理実習Ⅱが100%と「適切だった」の割合が高かった。

問10の教科書・参考書については「適切だった」の割合が前期で平均53%、後期で60%であった。「適切だった」の割合が低い教科では「使用していない」の割合も高かった。特に、前期では森林経営、造林学が100%、後期では農林業土木、林産加工が100%と「適切だった」割合が高かった。この項目に関しては、学生がテキスト代を支払っているため、費用対効果が適切でなければならない。適切な教材、テキストを適切に使用必要がある。各科目再度、テキストの使用と授業内容の関連について点検をする必要がある。

問11のシラバスに書かれた授業の内容が行われていたかについては、「行われた」の割合が前期で平均88%、後期で平均89%であった。特に、前期では森林経営、植物生理生態学、生花Ⅰ、人―農業・園芸・環境論の森班、花班、土班、畜産班、川班、造林学が100%、後期では農林業土木、園芸特論、造園演習が100%とシラバスに沿った授業が行われていたと評価した割合が高かった。

問12の授業は全体として満足できるものだったかについては、「そう思う」の割合が前期で平均79%、後期で平均92%であった。特に、前期では生花Ⅰ、人―農業・園芸・環境論の果樹班、川班、後期では農林業土木、林産加工、測量、身体スポーツ科学Ⅱ、花卉装飾学演習、造園演習、管理実習Ⅱが100%以上で最も「そう思う」割合が高かった。

授業に関する自由記述欄には「実用的な知識が身についた」「話し方に圧力を感じるので優しい口調で話してほしい」「寝ている人を起こすのを学生になせないでほしい」「パワーポイントの資料ではなく、教科書が欲しかった」「字をもう少し大きく書いてほしい」等の意見があった。

2.2 年生対象科目の評価

2) 自己評価(自身の授業への取り組み)(表5,表6)

問1の出席状況については「ときどき休んだ」の割合が前期で平均59%, 後期も「ときどき休んだ」の割合が平均63%と高かった。特に,前期では野外調査Ⅱ, 理学療法が80%以上, 後期では園芸実験実習Ⅳの林業専攻造園製図が平均75%以上で, 全出席の割合が高かった。2年生になると, 前期には編入学試験や就職活動, 資格試験, インターンシップがあり, 後期には, 就職活動や自動車学校に行くため1年生より欠席が増えたと考えられる。

問2の予習復習については「意欲的」の割合が高く, 前期で平均58%, 後期では「普通」の割合が高く, 平均49%であった。特に前期では造園施工管理学, 園芸実験実習Ⅲの造園専攻, 林業専攻, ガーデン材料計画学が100%, 後期では飼料作物学が100%であり, 「意欲的」の割合が高かった。

問3の課題・発表への取り組みについては「意欲的」の割合が前期で平均72%, 後期で平均49%であった。特に, 前期では野外調査Ⅱ, 造園施工管理学, 園芸実験実習Ⅲの果樹専攻, 造園専攻, 林業専攻, 野菜専攻, ガーデン材料計画学が80%以上, 後期では造園維持管理学園芸実験実習Ⅳの造園専攻, 林業専攻が80%以上と意欲的の割合が高かった。

問4の学習成果の達成については, 前期・後期ともに達成したと感じている科目が多かった。シラバスにおいて明確に達成目標が記載されており, 評価しやすかったと考えられる。

4) 授業評価(教授法の評価)(表7,表8)

問5の担当教員の意欲については, 「意欲的」の割合が前期で平均87%, 後期で平均92%であった。特に, 前期では野外調査Ⅱ, 造園施工管理学, 園芸実験実習Ⅲの果樹専攻, 造園専攻, 林業専攻, 野菜専攻, ガーデン材料計画学, 樹木学, 畜産学Ⅰ, 後期では園芸療法Ⅱ, 園芸実験実習Ⅳの花専攻, 果樹専攻, 造園専攻, 林業専攻, 野菜専攻, 育種遺伝学, 飼料作物学, 英会話Ⅱ, 樹木医学, 造園維持管理学, 造園製図, 園芸バイオ実習が100%と「意欲的」の割合が高かった。

問6の教員の言葉については「聞き取りやすい」の割合が前期で平均85%, 後期で平均82%であった。特に, 前期では野外調査Ⅱ, 造園施工管理学, 園芸実験実習Ⅲの果樹専攻, 造園専攻, 林業専攻, ガーデン材料計画学, 樹木学が100%, 後期では園芸実験実習Ⅳの果樹専攻, 花専攻, 造園専攻, 林業専攻, 野菜専

攻, 育種遺伝学, 飼料作物学, 造園維持管理学, 造園製図が100%と「聞き取りやすい」と高く評価された。

問7のわかりやすく説明していたかについては, 「わかりやすい」の割合が前期で平均83%, 後期は平均78%であった。特に前期では, 野外調査Ⅱ, 造園施工管理学, 園芸実験実習Ⅲの果樹専攻, 造園専攻, 林業専攻, ガーデン材料計画学, 樹木学が100%, 後期では園芸療法Ⅱ, 園芸実験実習Ⅳの花専攻, 果樹専攻, 造園専攻, 林業専攻, 野菜専攻, 飼料作物学, 造園維持管理学, 造園製図が100%と「わかりやすい」と高く評価された。

問8の学生の私語や居眠りに対しての対応については, 「適切だった」の割合が前期で平均74%, 後期で平均68%であった。特に前期では野外調査Ⅱ, 造園施工管理学, 園芸実験実習Ⅲの林業専攻, ガーデン材料計画学, 畜産学Ⅰが100%, 後期では園芸実験実習Ⅳの作物専攻, 花専攻, 造園専攻, 林業専攻, 野菜専攻, 飼料作物学が100%と「適切だった」と高かった。

問9の板書, パワーポイント, DVD, プリント等の使用については「適切」の割合が前期で平均84%, 後期で平均78%であった。特に前期では, 野外調査Ⅱ, 造園施工管理学, 園芸実験実習Ⅲの果樹専攻, 林業専攻, ガーデン材料計画学, 樹木学, 畜産学Ⅰ, 後期では園芸療法Ⅱ, 園芸実験実習Ⅳの果樹専攻, 造園専攻, 林業専攻, 育種遺伝学, 英会話Ⅱ, 飼料作物学, 造園製図, 園芸バイオ実習が100%と「適切だった」の割合が高かった。

問10の教科書・参考書の使用については「適切」の割合が最も多かった。前期で平均73%, 後期で71%であった。特に前期では, 造園施工管理学, 園芸実験実習Ⅲの林業専攻, 香りと色彩の心理, 畜産学Ⅰ, 後期では園芸実験実習Ⅳの花専攻, 果樹専攻, 造園専攻, 林業専攻, 飼料作物学, 造園製図が100%と「適切だった」の割合が高かった。

問11のシラバスに書かれた授業の内容が行われていたかについては, 「行われた」が最も多かった。前期で平均83%, 後期で平均86%であった。特に前期では, 野外調査Ⅱ, 造園施工管理学, 園芸実験実習Ⅲの林業専攻, 造園専攻, 野菜専攻, ガーデン材料計画学, 後期では, 園芸療法Ⅱ, 園芸実験実習Ⅳの花専攻, 果樹専攻, 造園専攻, 林業専攻, 野菜専攻, 飼料作物学, 造園維持管理学, 造園製図, 園芸バイオ実習が100%とシラバス通りに授業が「行われた」の割合が高かった。

問12の授業が全体として満足できるものであったか

については、「そう思う」の割合が最も多かった。前期で平均89%、後期で平均86%であった。特に前期では、野外調査Ⅱ造園施工管理学、園芸実験実習Ⅲの果樹専攻、造園専攻、林業専攻、野菜専攻、ガーデン材料計画学、樹木学、後期では園芸療法Ⅱ、園芸実験実習Ⅳの作物専攻、花専攻、果樹専攻、造園専攻、林業専攻、野菜専攻、育種遺伝学、飼料作物学、造園維持管理学、造園製図、園芸バイオ実習が100%と授業が全体として満足できた割合が高かった。理由欄には、「生徒に意見を求めながら授業が進んでいたから」「自分にとって難しいことも多かったが、ついていくことを頑張った」「少し内容は難しかったが、多くのことを知ることができた」「体験エピソードが面白かった」「解き方の過程がもっと知りたかった。教科書が欲しかった」「ひとまゝで発表をして満足感が得られた」などの意見があった。

全体を踏まえた自由記述欄には「3 問間違えたら単位を落としてしまうという評価の仕方は改善すべきだと思う」「授業プリントの文字が小さく、見づらい時があった」「優しい人だと思ったが、授業に集中していない人には厳しく対応したほうが良いと思った」「先生が用意してくれるプリントがとても分かりやすかった」「先生の話はとてもためになるなと思いながら授業を受けていた」「講義内容が社会に出る人にとってとても大事な話でありがたかった」「配布されるプリントがとても作り込まれていてわかりやすかったです。パワポではなく、Word ならもっと見やすかったです」「毎回授業が楽しかったです。授業後に classroom でスライドをアップしていたのが、授業前だともっといいなと思いました」「英会話をする練習を増やしてほしい」「進路についてとても真剣に考えてくれていてありがたかった」などの意見があった。

まとめ

学生による授業評価は 1 年生、2 年生の前期と後期ともにほとんどの科目で評価が高かった。

今後の課題として、問2の予習・復習を行ったかについては「普通」の割合が高い。シラバスには記載してあるものの、「意欲的」にするところまでには至っていないのが現状である。予習・復習を組み込んだ授業展開を考えていく必要がある。

問3の授業のレポート、課題提出、発表への取り組みについて、アクティブラーニングが主体の科目については評価が高い傾向にあるが、問2同様、意欲的にできていないと考える学生が多い。レポート、課題、発表の目的が把握できていない、もしくは理解できていない可能性がある。出題意図を明確に提示していくことが必要で

はないかと思われる。

今回の授業評価を今後の授業の改善に繋げていく。

授業評価アンケート(前期・後期)

大分短期大学園芸科 自己点検・評価委員会

このアンケートは、授業の内容を充実したものにするために、現状を検討し、授業の改善を図るための大切な資料です。成績評価とは全く関係ありませんので率直に教えてください。

評価科目 (専攻) 氏名

*園芸実験実習Ⅲ・Ⅳでは専攻名を記入してください

番号記入

自己評価	1	この授業の出席状況はどうでしたか。	1. 全出席 2. ときどき休んだ 3. ほぼ休んだ 理由()	
	2	この授業の予習復習はしましたか。	1. 意欲的 2. 普通 3. 消極的 理由()	
	3	この授業のレポート・課題提出・発表への取り組みはどうでしたか。	1. 意欲的 2. 普通 3. 消極的 理由()	
	4	この授業の学習成果(到達目標)を達成できましたか。 (各科目の講義要項(シラバス)の“短期大学士力番号と項目”(科目名の下に記載してある番号)を確認し、達成できた項目の短期大学士力番号に丸印をつけてください。また主な理由も記入してください)	短期大学士力番号 (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 ・ 9 ・ 10) 主な理由 <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>	
授業評価(教授法について)	5	担当教員の意欲はどうでしたか。	1. 意欲的 2. 普通 3. 消極的 理由()	
	6	担当教員の言葉は明瞭に聞き取れましたか。	1. 聞き取りやすい 2. 普通 3. 聞きにくい	
	7	わかりやすく説明していましたか。	1. わかりやすい 2. 普通 3. わかりにくい	
	8	教員は、学生の私語や居眠りに対し適切な指導をしていましたか。	1. 適切だった 2. 普通 3. 適切でなかった	
	9	板書・パワーポイント・DVD・プリントの使用は適切でしたか。	1. 適切だった 2. 普通 3. 適切でなかった 4. 使用していない 理由()	
	10	教科書・参考書などの教材の使用は適切でしたか。	1. 適切だった 2. 普通 3. 適切でなかった 4. 使用していない 理由()	
	11	シラバスに書かれた授業の内容が行われましたか。	1. 行われた 2. ほぼ行われた 3. 行っていなかった	
	12	この授業は全体として満足できるものでしたか。	1. そう思う 2. どちらともいえない 3. そう思わない 理由()	
*授業に対する意見や要望、感じたことがあったら書いてください。				

表3.授業評価(教授法についての評価) (1年生前期の対象科目)

科目	各問の選択肢を選んだ学生の割合(%)																									
	問5			問6			問7			問8			問9				問10				問11			問12		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	1	2	3
農業学	47	47	5	37	47	16	53	37	11	32	58	11	79	16	5	0	44	22	6	28	79	16	5	89	74	11
森林経営	60	40	0	20	80	0	40	60	0	60	40	0	40	60	0	0	100	0	0	0	100	0	0	80	20	0
園芸学総論	63	38	0	50	42	8	46	46	8	63	38	0	58	38	0	4	26	13	0	61	83	17	0	71	25	4
作物学	52	21	0	52	21	0	48	24	0	42	30	0	58	15	0	0	58	15	0	0	64	9	0	64	9	0
ガーデニング概論	47	47	6	65	35	0	59	41	0	41	47	12	82	12	6	0	35	6	0	59	94	6	0	82	18	0
野菜園芸学	85	15	0	85	15	0	84	13	0	59	41	0	90	10	0	0	90	10	0	0	90	10	0	95	5	0
基礎農業土木工学	67	33	0	33	29	38	42	42	17	58	38	4	46	46	8	0	79	17	4	0	88	13	0	58	33	8
園芸実験実習Ⅰ	67	33	0	58	38	4	46	54	0	54	46	0	38	25	0	38	38	17	0	46	83	17	0	92	8	0
植物生理生態学	70	30	0	73	21	0	68	32	0	58	42	0	84	16	0	0	89	11	0	0	100	0	0	89	11	0
コミュニケーション論	80	20	0	80	20	0	75	25	0	80	20	0	80	15	0	5	50	5	45	0	90	10	0	90	10	0
生花Ⅰ	88	13	0	75	25	0	88	13	0	63	38	0	75	0	0	25	63	13	0	25	100	0	0	100	0	0
人・農業・園芸・環境関係論	71	29	0	67	33	0	67	33	0	63	38	0	67	17	0	17	33	4	0	63	92	8	0	75	21	4
— 森	75	25	0	50	50	0	75	25	0	50	50	0	75	25	0	0	25	0	0	75	100	0	0	75	25	0
— 花	100	0	0	100	0	0	100	0	0	100	0	0	67	33	0	0	67	0	0	33	100	0	0	67	33	0
— 土	0	100	0	33	67	0	0	100	0	33	67	0	33	33	0	33	0	0	0	100	100	0	0	33	33	33
— 畜産	33	67	0	33	67	0	33	67	0	67	33	0	100	0	0	0	67	0	0	33	100	0	0	50	50	0
— 果樹	100	0	0	75	25	0	50	50	0	75	25	0	50	0	0	50	0	0	0	100	75	25	0	100	0	0
— 川	100	0	0	100	0	0	100	0	0	75	25	0	75	0	0	25	50	0	0	50	100	0	0	100	0	0
— 海	67	33	0	67	33	0	67	33	0	67	33	0	67	33	0	0	33	33	0	33	67	33	0	67	33	0
造園学総論	54	46	0	63	29	8	58	42	0	50	46	4	83	13	4	0	75	25	0	0	88	13	0	79	21	0
英語Ⅰ	71	29	0	76	24	0	59	41	0	71	29	0	82	18	0	0	94	6	0	0	88	12	0	76	24	0
身体スポーツ科学Ⅰ	36	55	9	50	45	5	50	45	5	73	27	0	23	5	0	73	18	5	0	77	73	18	9	91	9	0
造林学	43	57	0	71	14	14	71	29	0	14	86	0	86	14	0	0	100	0	0	0	100	0	0	86	14	0
教養演習Ⅰ	58	42	0	63	37	0	74	26	0	53	42	5	79	21	0	0	68	26	0	5	63	32	5	74	21	5
野外調査Ⅰ	68	32	0	63	37	0	74	26	0	63	37	0	47	21	0	32	16	11	0	74	74	16	11	89	11	0
平均	64	34	1	62	33	4	61	36	2	59	39	1	67	19	1	12	53	10	2	34	88	10	1	79	20	3

表4.授業評価(教授法についての評価) (1年生後期の対象科目)

科目	各問の選択肢を選んだ学生の割合(%)																									
	問5			問6			問7			問8			問9				問10				問11			問12		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	1	2	3
情報処理	47	53	0	63	32	5	32	58	11	53	47	0	74	21	0	5	26	11	0	63	95	5	0	79	16	5
土壤肥料学	95	5	0	86	14	0	32	68	0	86	14	0	95	5	0	0	95	5	0	0	95	5	0	95	5	0
進路支援Ⅰ	86	14	0	73	23	0	82	14	0	64	32	0	85	15	0	0	36	9	0	50	82	14	0	91	5	0
教養演習Ⅱ	62	38	0	69	31	0	75	25	0	46	54	0	85	15	0	0	69	23	0	8	62	38	0	85	15	0
農林業土木	91	9	0	91	9	0	91	9	0	91	9	0	82	18	0	0	100	0	0	0	100	0	0	100	0	0
林産加工	91	8	0	83	17	0	92	8	0	67	33	0	100	0	0	0	100	0	0	0	92	8	0	100	0	0
統計学	77	23	0	67	30	3	43	40	17	43	57	0	70	27	3	0	47	17	0	37	90	10	0	50	40	10
施設園芸学	96	4	0	87	13	0	91	9	0	61	39	0	91	9	0	0	61	4	0	35	96	4	0	96	4	0
園芸実験実習Ⅱ	91	9	0	78	17	4	78	22	0	84	13	0	65	4	0	30	57	4	0	39	93	17	0	96	4	0
農林業機械学	86	14	0	76	24	0	75	24	0	62	33	5	81	10	5	5	86	10	0	5	86	14	0	95	5	0
生花Ⅱ	100	0	0	89	11	0	100	0	0	89	0	11	89	0	0	11	56	0	0	44	89	11	0	89	11	0
測量	67	33	0	33	67	0	67	17	17	33	67	0	100	0	0	0	83	17	0	0	83	17	0	100	0	0
園芸特論	87	9	4	57	30	13	65	30	4	84	9	4	96	0	0	4	30	9	0	61	100	0	0	91	9	0
アグリビジネス論	92	8	0	83	8	8	75	25	0	58	42	0	83	17	0	0	67	0	0	33	75	25	0	92	8	0
英語Ⅱ	88	12	0	100	0	0	82	18	0	76	24	0	88	12	0	0	94	6	0	0	88	12	0	88	12	0
身体スポーツ科学Ⅱ	65	35	0	83	13	4	65	30	4	83	17	0	30	4	0	65	26	0	0	74	78	22	0	100	0	0
花卉装飾学演習	100	0	0	100	0	0	100	0	0	100	0	0	80	0	0	20	80	20	0	0	80	20	0	100	0	0
特別講義Ⅰ	90	10	0	80	15	5	90	10	0	70	30	0	90	5	0	5	40	5	0	55	95	5	0	95	5	0
造園演習	100	0	0	100	0	0	100	0	0	80	20	0	100	0	0	0	20	0	0	80	100	0	0	100	0	0
管理実習Ⅱ	93	0	0	100	0	0	100	0	0	79	21	0	100	0	0	0	29	0	0	71	93	7	0	100	0	0
平均	85	14	0	80	18	2	77	20	3	70	28	1	84	8	0	7	60	7	0	33	89	12	0	92	7	1

表7.授業評価(教授法についての評価)(2年生前期の対象科目)

科目	各問の選択肢を選んだ学生の割合(%)																									
	問5			問6			問7			問8			問9				問10				問11			問12		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	1	2	3
野外調査Ⅱ	100	0	0	100	0	0	100	0	0	100	0	0	100	0	0	0	80	0	0	20	100	0	0	100	0	0
介護理論	73	27	0	91	9	0	91	9	0	55	45	0	91	9	0	0	55	9	0	36	82	18	0	91	9	0
果樹園芸学	83	17	0	78	22	0	78	22	0	56	44	0	78	22	0	0	83	17	0	0	78	22	0	89	11	0
理学療法	88	13	0	81	19	0	94	6	0	69	31	0	94	6	0	0	75	0	0	25	94	6	0	94	6	0
作業療法	94	6	0	94	6	0	94	6	0	81	19	0	94	6	0	0	75	0	0	25	88	13	0	94	6	0
ガーデンデザイン演習Ⅰ	75	25	0	75	25	0	75	25	0	75	25	0	75	25	0	0	75	0	0	25	75	25	0	75	25	0
野菜園芸学	89	11	0	89	11	0	94	6	0	67	33	0	94	6	0	0	89	11	0	0	89	11	0	94	6	0
造園施工管理学	100	0	0	100	0	0	100	0	0	100	0	0	100	0	0	0	100	0	0	0	100	0	0	100	0	0
園芸実験実習Ⅲ	85	15	0	78	22	0	78	22	0	74	26	0	59	19	0	22	52	22	0	26	85	15	0	93	7	0
— 作物	57	43	0	43	57	0	57	43	0	71	29	0	43	29	0	29	43	29	0	29	71	29	0	86	14	0
— 花	86	14	0	86	14	0	71	29	0	71	29	0	57	14	0	29	43	29	0	29	86	14	0	86	14	0
— 果樹	100	0	0	100	0	0	100	0	0	0	100	0	100	0	0	0	0	0	0	100	0	100	0	100	0	0
— 造園	100	0	0	100	0	0	100	0	0	50	50	0	50	0	0	50	50	0	0	50	100	0	0	100	0	0
— 林業	100	0	0	100	0	0	100	0	0	100	0	0	100	0	0	0	100	0	0	0	100	0	0	100	0	0
— 野菜	100	0	0	86	14	0	86	14	0	86	14	0	71	29	0	0	71	29	0	0	100	0	0	100	0	0
香りと色彩の心理	82	18	0	82	18	0	82	18	0	82	18	0	100	0	0	0	100	0	0	0	88	12	0	94	6	0
英会話Ⅰ	93	7	0	93	7	0	79	21	0	71	29	0	93	7	0	0	93	7	0	0	79	21	0	93	7	0
ガーデン材料計画学	100	0	0	100	0	0	100	0	0	100	0	0	100	0	0	0	83	0	0	17	100	0	0	100	0	0
生花Ⅲ	90	10	0	90	10	0	90	10	0	80	20	0	80	0	0	20	90	10	0	0	90	10	0	90	10	0
美術・文化論	79	21	0	57	36	7	50	50	0	50	50	0	71	29	0	0	43	21	0	36	71	29	0	0	29	0
樹木学	100	0	0	100	0	0	100	0	0	89	11	0	100	0	0	0	89	0	0	11	89	11	0	100	0	0
畜産学Ⅰ	100	0	0	75	25	0	50	50	0	100	0	0	100	0	0	0	100	0	0	0	75	25	0	75	25	0
老人福祉論	88	13	0	69	19	13	81	19	0	81	19	0	94	6	0	0	94	6	0	0	88	13	0	94	6	0
花卉装飾学	63	38	0	63	38	0	63	38	0	75	25	0	75	25	0	0	88	13	0	0	75	25	0	88	13	0
園芸療法Ⅰ	93	7	0	93	7	0	93	7	0	79	21	0	93	7	0	0	57	14	0	29	86	14	0	93	7	0
教養演習Ⅲ	50	50	0	88	13	0	63	38	0	50	50	0	75	25	0	0	63	0	0	38	75	25	0	88	13	0
平均	87	13	0	85	14	1	83	17	0	74	26	0	84	10	0	6	73	8	0	19	83	17	0	89	8	0

表8.授業評価(教授法についての評価)(2年生後期の対象科目)

科目	各問の選択肢を選んだ学生の割合(%)																									
	問5			問6			問7			問8			問9				問10				問11			問12		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	1	2	3
植物病理学	70	30	0	30	65	4	26	48	26	26	74	0	61	39	0	4	57	30	0	13	74	26	0	61	39	0
応用昆虫学	68	32	0	37	58	5	21	63	16	37	63	0	68	32	0	0	47	32	0	21	68	32	0	68	32	0
進路支援Ⅱ	89	11	0	82	18	0	82	18	0	57	43	0	79	21	0	0	61	18	0	21	82	18	0	89	11	0
園芸研究	89	11	0	85	15	0	85	15	0	63	37	0	78	19	0	4	63	15	0	22	85	15	0	93	7	0
社会心理学	95	5	0	89	11	0	89	11	0	68	32	0	89	11	0	0	68	21	0	11	89	11	0	95	5	0
園芸療法Ⅱ	100	0	0	83	17	0	100	0	0	67	33	0	100	0	0	0	67	0	0	33	100	0	0	100	0	0
ガーデンデザイン演習Ⅱ	50	50	0	50	50	0	0	100	0	0	100	0	50	50	0	0	0	50	0	50	50	50	0	50	50	0
園芸実験実習Ⅳ	96	4	0	93	7	0	93	7	0	82	18	0	68	11	0	21	64	0	0	36	82	18	0	96	4	0
— 作物	100	0	0	100	0	0	80	20	0	100	0	0	40	20	0	40	20	0	0	80	40	60	0	100	0	0
— 花	100	0	0	100	0	0	100	0	0	100	0	0	0	0	0	100	100	0	0	0	100	0	0	100	0	0
— 果樹	100	0	0	100	0	0	100	0	0	100	0	0	100	0	0	0	100	0	0	0	100	0	0	100	0	0
— 造園	100	0	0	100	0	0	100	0	0	100	0	0	100	0	0	0	100	0	0	0	100	0	0	100	0	0
— 林業	100	0	0	100	0	0	100	0	0	100	0	0	100	0	0	0	100	0	0	0	100	0	0	100	0	0
— 野菜	100	0	0	100	0	0	100	0	0	75	25	0	75	0	0	25	75	0	0	25	100	0	0	100	0	0
— 園芸療法	92	8	0	83	17	0	92	8	0	67	33	0	67	17	0	17	58	0	0	42	83	17	0	92	8	0
環境保全学	92	8	0	62	38	0	69	31	0	62	38	0	77	23	0	0	77	23	0	0	69	31	0	92	8	0
育種遺伝学	100	0	0	100	0	0	92	8	0	75	25	0	100	0	0	0	58	17	0	25	83	17	0	100	0	0
統計学	67	33	0	73	27	0	47	47	7	47	53	0	67	27	7	0	60	27	0	13	87	13	0	53	40	7
英会話Ⅱ	100	0	0	79	21	0	93	7	0	57	43	0	100	0	0	0	93	7	0	0	86	14	0	0	0	0
生花Ⅳ	88	13	0	88	13	0	88	13	0	63	38	0	88	13	0	0	88	13	0	0	88	13	0	88	13	0
飼料作物学	100	0	0	100	0	0	100	0	0	100	0	0	100	0	0	0	100	0	0	0	100	0	0	100	0	0
樹木医学	100	0	0	56	44	0	56	44	0	56	44	0	67	33	0	0	67	33	0	0	78	22	0	89	11	0
造園維持管理学	100	0	0	100	0	0	100	0	0	86	14	0	86	14	0	0	86	14	0	0	100	0	0	100	0	0
障害者福祉論	91	9	0	55	27	18	45	55	0	45	55	0	64	36	0	0	82	18	0	0	82	18	0	64	36	0
花卉園芸学	83	17	0	83	17	0	83	17	0	67	33	0	83	17	0	0	67	17	0	17	83	17	0	83	17	0
造園製図	100	0	0	100	0	0	100	0	0	75	25	0	100	0	0	0	100	0	0	0	100	0	0	100	0	0
園芸バイオ実習	100	0	0	86	14	0	86	14	0	71	29	0	100	0	0	0	71	14	0	14	100	0	0	100	0	0
特別講義Ⅱ	93	4	0	71	25	0	68	29	0	68	25	4	82	14	0	0	57	18	0	21	86	11	0	89	7	0
平均	92	8	0	82	17	1	78	20	2	68	31	0	78	14	0	7	71	13	0	16	86	14	0	86	10	0

令和4年度 大分短期大学生の学修・生活実態

小石 鉄兵

(大分短期大学 園芸科 自己点検・評価委員会)

Learning and living conditions of students
in OITA JUNIOR COLLEGE in Fiscal 2022

Tepei KOISHI

(The Board of Self-Inspection / Assessment, OITA JUNIOR COLLEGE)

要約

大分短期大学生の学習面および生活面の実態を把握することを目的にアンケート調査を例年、実施している。

学習面をサポートする上での環境面である図書館および5階自習室の利用状況は、図書館を利用する学生が大半を占めていた。一方、5階自習室については存在の認識が乏しいことが分かった。利用しない理由として、「使っていないかわからない」「鍵がかかっているから」「5階まで上がるのが大変」等が挙げられた。学習面は、昨年度より、両学年とも同数あるいは半数を超えて予習と復習に取り組んでいる状況があった。ただし、1年生は2年生よりも予習に取り組む学生が多かった。また、両学年とも予習より復習に取り組む学生が多かった。取り組まない理由として、『しよと思っただけ』、『家で勉強をしない』等の学生側の問題と、『予習する必要がない』等と感じさせる教員側の問題もあったと考えられる。平日・休日における学習時間や夏季休暇中の学習については、例年通り、1年生は取り組む割合が高かったのに対し、2年生はあまり取り組んでいない状況にあった。教育全体の満足度は、『概ね満足』と回答した学生が両学年とも大半を占めており、理由として教職員の対応や学べる分野の広さが挙げられた。

学生生活については、『アルバイト』、『睡眠時間』、『朝食の摂取状況』、『困った時に相談できる存在の有無』について調査した。今年度は1年生に比べ2年生においてアルバイトをする学生が多かった。理由の多くは、経済的理由を挙げる回答が多かった。睡眠時間や朝食の非摂取の割合においても2年生の方が多かった。睡眠時間については、例年と同様に『眠れない』などの医学的問題を抱えた学生が存在する可能性があり、個別に対処する必要がある。『相談者の有無』については、両学年とも『いない』と回答した人数は減少傾向にあるものの、引き続きリスク管理を要する状態にあった。プライベートな面も含めフォローが必要になると推察した。

学習成果は、アンケートの自己評価を10段階評価で実施した。習熟度は、1年生よりも2年生において高かった。習熟度が高かった学習成果は、2年生が「一般教養知識」「基礎的専門技能」「社会的基礎知識」「多様性、協働性」の4項目であった。1年生では、「基礎的専門知識」「社会的基礎知識」の2項目であった。

本調査の結果を踏まえて本学学生の学習面と生活面の改善をさらに進める必要がある。

キーワード：学修実態、生活実態、学習成果

緒言

平成24年8月、文部科学省中央教育審議会から「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」が答申された。大分短期大学では、平成21年度から「人－農業・園芸・環境関係論」において、学生主体型の授業(アクティブラーニング)を取り入れたことをきっかけとして他授業への導入も展開

している。平成28年度一般財団法人短期大学基準協会による機関別評価において『本学のすべての専任教員は、担当科目にアクティブラーニング(学生主体型授業)を2コマ程度導入し、全学的な教育の質的転換を図っている』は特に優れた試みとして評価された。この他にも小規模大学ならではのゼミナール制により学生個人に合わせた指導にも力を入れている。

本報告では、これらの取り組みが学生へどのように影響するかを把握するため学習および学生生活に関するアンケート調査を行った結果を報告する。

調査方法

令和5年2月10日にアンケート調査を実施し、2年生28名ならびに1年生24名を調査対象とした。質問は別添資料1, 2に示す27項目(学修関連11項目, 学習成果10項目, 生活関連6項目)であった。1年生および2年生に同じ質問をし、回答は選択式とした。

結果

1. アンケートの回答率

「学修および学生生活に関するアンケート調査」に対し2年生28名, 1年生24名から回答を得た。回答率は1年生96%, 2年生100%であった。

2. 学修に関するアンケート

(1)「大分短大の図書館の利用状況」に対する回答

1年生および2年生ともに“頻繁”または“ときどき”「利用している」と回答した者が大半を占めている現状にあった。「利用しない」を選択する者は、2年生2名, 1年生3名であった(表1)。

表1. 短大の図書館を利用しますか？

選択肢	2年生	1年生
1. 頻繁に利用する	9	4
2. ときどき利用する	17	16
3. 利用しない	2	3
合計	28	23

○短大の図書館利用の目的について

2年生(13名からの具体的記載内容(意見重複))

- 1) 勉強のため 3
- 2) 本で調べながら勉強できる
- 3) エアコンきいてて勉強しやすい
- 4) 試験や資格の勉強をするため 2
- 5) 勉強やレポート, 資料の作成
- 6) テスト, 検定の勉強
- 7) 就職のための勉強
- 8) ゼミ研, 資格勉強
- 9) 3Fで使用しやすい 2

1年生(14名からの具体的記載内容(意見重複))

- 1) テスト勉強
- 2) 課題に取り組むために提出している
- 3) 勉強するため
- 4) 自主学習

- 5) パソコンや本を見るから 2
- 6) 印刷物があるから
- 7) データを移行する時など
- 8) 授業の印刷に使用しています
- 9) 自習 2
- 10) 43 教室が使えない際の自習室
- 11) 空き時間の勉強
- 12) 自習, パソコンを使うため

○図書館を利用しない理由について 2年生(3名からの具体的記載内容)

- 1) 家が好き
 - 2) 人が多いから
 - 3) うるさい
- ##### 1年生(3名からの具体的記載内容)
- 1) 図書館があるので使わない
 - 2) 家が近いから
 - 3) 家で十分できるから, うるさいから

○図書館利用に向けた要望について 2年生(2名からの具体的記載内容)

- 1) パソコンの新調(データがときどき消える)
 - 2) パソコンを増やしてほしい
- ##### 1年生(2名からの具体的記載内容)
- 1) 緊張するので明るくいきたい
 - 2) パソコンのマウスの性能を良くしてほしい

(2)「大分短大5階自習室の利用状況」に対する回答

2年生および1年生ともに「頻繁に利用する」または「ときどき利用する」との回答者数が「利用しない」の回答者数を下回った(表2)。

表2. 短大の5F自習室を利用しますか？

選択肢	2年生	1年生
1. 頻繁に利用する	2	2
2. ときどき利用する	8	5
3. 利用しない	13	16
4. 無回答	5	0
合計	28	23

○短大の5階自習室利用の目的について

2年生(5名からの具体的記載内容)

- 1) 勉強のため
- 2) 1人で集中して勉強できる
- 3) 昼食
- 4) テスト, 検定の勉強
- 5) 静かで勉強しやすい

1年生(4名からの具体的記載内容)

- 1) 空きコマに利用する 2
- 2) ゴミ箱を設置してほしい
- 3) 空き時間の勉強

○5F 自習室を利用しない理由について

2年生(4名からの具体的記載内容(意見重複))

- 1) 5階まで上がるのが大変だから
- 2) 図書室で自習できるから
- 3) 上がらない
- 4) 図書館があるから

1年生(8名からの具体的記載内容(意見重複))

- 1) 使っていないかわからない
- 2) いつも図書館で自習しているので、今まで使ったことはない
- 3) 存在を忘れていた
- 4) 図書館を利用するから
- 5) 存在を認識していなかった 3
- 6) 鍵がかかっているから
- 7) あまりいく機会がない
- 8) 使用するタイミングがない

○5F 自習室利用にむけた要望について

2年生および1年生

回答なし

(3)「普段の授業の予習状況について」に対する回答

2年生の「毎回している」および「ときどきしている」の回答者数は、「あまりしていない」および「全くしていない」の回答者数と同数であった。

1年生の「毎回している」および「ときどきしている」の回答者数は、「あまりしていない」および「全くしていない」の回答者数を上回った(表3)。

表3. 授業の予習をしていますか？

選択肢	2年生	1年生
1. 毎回している	2	0
2. ときどきしている	12	15
3. あまりしていない	10	5
4. 全くしていない	4	3
合計	28	23

○予習をしない理由について

2年生(10名からの具体的回答)

- 1) 授業による. 前回内容が分からなかったら取り組んでいる
- 2) しようと思ったことがない
- 3) 予習する必要がない

- 4) 家で勉強をしないから
- 5) 予習が必要な科目が少ないから
- 6) 予習をする考えがない
- 7) なにをすれば良いかわからない
- 8) できない科目もある
- 9) 色々と予定が多くて時間がなかった
- 10) 課題が出る訳でもないから性格上取り組もうと思わないため

1年生(7名からの具体的回答)

- 1) 先生に言われてないから, 別にしなくていいから
- 2) 予習をしてと言われた時しかしない
- 3) しようとは思うけどいざとなったらできない
- 4) TOEICの勉強に時間を当てているため
- 5) 時間がない
- 6) 余裕がない
- 7) 復習の方が, 意味があると思うから. 復習で精一杯だから

○予習についての改善案

2年生(6名からの具体的回答)

- 1) 計画的に行う.
- 2) 予習内容の提示
- 3) 図書館とか行く
- 4) 考えを改める
- 5) 時間を決めて取り組む
- 6) レポートなどの提出があればする

1年生(7名からの具体的回答)

- 1) 課題として出されたらやると思う
- 2) 時間がある時には予習する
- 3) 毎日, 10分でも良いからする
- 4) すきま時間を利用する
- 5) 時間を作る 2
- 6) 予習の課題を出す

(4)「普段の授業の復習状況について」に対する回答

2年生の「毎回している」および「ときどきしている」の回答者数は、「あまりしていない」および「全くしていない」の回答者数を下回ったが, 1年生では反対に上回った(表4)。

表4. 授業の復習をしていますか？

選択肢	2年生	1年生
1. 毎回している	1	1
2. ときどきしている	12	14
3. あまりしていない	10	5
4. 全くしていない	4	3
5. 無記入	1	0
合計	28	23

○復習をしない理由について

2年生(12名からの具体的回答)

- 1) 授業による. 内容が分からなかったら週末にまとめてやっている
- 2) 忘れてしまう
- 3) 統計学はした
- 4) なにをしたらいいかわからなかったから
- 5) 復習が必要な科目が少ないから
- 6) 復習の考えがない
- 7) 配布資料や授業内容がわかりづらいものがあり, 復習しづらい
- 8) めんどくさいから
- 9) 色々と予定が多くて時間がなかった
- 10) 授業で習うから
- 11) 先生に課題として復習をしてくるよう言われない
かぎり自立的には取り組もうとならなかった
- 12) 授業がさほど難しくない, 暗記ものが多い

1年生(7名からの具体的回答)

- 1) テスト前に勉強しようと思うから
- 2) やらなくていいから
- 3) 趣味に使っている時間が多い
- 4) 資格取得の勉強を優先してしまう
- 5) しようとは思うけどいざとなったらできない
- 6) TOEIC の勉強に時間を当てているため
- 7) 時間が無い

○復習についての改善案

2年生(5名からの具体的回答)

- 1) 計画を立てる
- 2) 復習内容の提示
- 3) 先生にきく
- 4) 考えを改める
- 5) 時間を決めて取り組む

1年生(5名からの具体的回答)

- 1) 課題として出す
- 2) 趣味に使っている時間を減らす
- 3) 毎日, 10分でも良いからする

- 4) すきま時間を利用する
- 5) 時間を作る

(5)「予習と復習を合わせた平日の勉強時間」に対する回答

2年生は, 「1~2 時間」の回答者数が最も多かった. 次いで「1 時間以下」であった. 1年生は, 「1~2 時間」と「1 時間以下」の回答者数が最も多かった(表 5).

表5. 予習・復習の平日勉強時間について

選択肢	2年生	1年生
1. 4時間以上	0	2
2. 3~4時間	2	1
3. 2~3時間	4	3
4. 1~2時間	11	7
5. 1時間以下	7	7
6. 全くしていない	4	3
合計	28	23

(6)「予習と復習を合わせた休日の勉強時間」に対する回答

2年生は, 「2~3 時間」の回答者数が最も多かった. 次いで「1 時間以下」の回答者が多かった.

1年生は, 「1~2 時間」の回答者数が最も多かった. 次いで「1 時間以下」の回答者が多かった(表 6).

表6. 予習・復習の休日勉強時間について

選択肢	2年生	1年生
1. 4時間以上	1	0
2. 3~4時間	2	4
3. 2~3時間	8	3
4. 1~2時間	6	8
5. 1時間以下	7	6
6. 全くしていない	4	2
合計	28	23

(7)「レポート課題などの調べものをするときの情報源」に対する回答

2年生および1年生ともに最も多かった回答は「インターネット」であった. 次いで「教科書や参考書」であった. 「教員」と「友人や先輩」の回答者数は例年と同様の割合であった(表 7).

表7. 調べものの情報源は？(複数回答可)

選択肢	2年生	1年生
1. 教科書や参考書	13	10
2. インターネット	25	21
3. 教員	1	1
4. 友人や先輩	2	3
合計	41	35

(8)「学習のためのインターネット利用時間(1 日)」に対する回答

1年生および2年生ともに最も多かった回答は「1 時

間以内], 次いで「1～2 時間」であった(表 8).

表8. 1日のインターネット利用時間は？

選択肢	2年生	1年生
1. 2時間以上	3	2
2. 1～2時間	8	7
3. 1時間以内	14	14
4. 全く利用しない	3	0
合計	28	23

(9)「大分短大の授業の難しさ」に対する回答

2 年生は、「あまり難しくはない」の回答者数が最も多く、次いで「まあまあ難しい」であった。

1 年生は、「まあまあ難しい」の回答者数が最も多く、次いで「あまり難しくはない」であり、2 年生と反対の結果となった(表 9).

表9. 短大の授業は難しいか？

選択肢	2年生	1年生
1. とても難しい	1	1
2. まあまあ難しい	11	13
3. あまり難しくはない	16	8
4. 全く難しくない	0	1
5. 無回答	0	0
合計	28	23

○授業について

短大の授業で難しいと感じている科目

2 年生(15 名からの具体的記載内容(複数回答))

- 1) 計算系
- 2) 統計学 8
- 3) 測量 2
- 4) 農業経済と経営
- 5) 植物病理学 2
- 6) 農林業機械学

1 年生(19 名からの具体的記載内容(複数回答))

- 1) 統計学 10
- 2) 情報処理 4
- 3) 測量 2
- 4) 専門の知識 2
- 5) 計算することが多い科目は全て難しい

(10)「夏休み中の編入/公務員講座に参加状況」に対する回答

2 年生は、「全く参加しなかった」ならびに「参加する予定はなかった」の回答者数が最も多く、次いで「ほとんど参加しなかった」であった。

1 年生は、「まあまあ参加した」の回答者数が最も多く、次いで「ほぼ参加した」であった(表 10).

表10. 夏休み中の編入学講座への参加について

選択肢	2年生	1年生
1. すべて参加した	0	1
2. ほぼ参加した	1	7
3. まあまあ参加した	5	8
4. ほとんど参加しなかった	6	2
5. 全く参加しなかった	8	1
6. 参加する予定はなかった	8	4
合計	28	23

(11)「夏休み中の編入/公務員講座以外の自主学習について…1 日あたりの学習時間(資格取得のための勉強時間を除く)」に対する回答

2 年生は、「1 時間以下」ならびに「全くしなかった」の回答者数が最も多く、次いで「1～2 時間」であった。

1 年生は、「1～2 時間」の回答者数が最も多く、次いで「1 時間以下」であった(表 11).

表11. 夏休み中の対策講座以外の学習時間は？

選択肢	2年生	1年生
1. 4時間以上	2	0
2. 3～4時間	3	1
3. 2～3時間	3	2
4. 1～2時間	4	13
5. 1時間以下	8	6
6. 全くしていない	8	1
7. 無回答	0	0
合計	28	23

(12)「大分短大の教育全体の満足度」に対する回答

1, 2 年生ともに最も多かった回答は「まあまあ満足している」, 次いで「大変満足している」であった(表 12).

表12. 大分短大の教育全体の満足度は？

選択肢	2年生	1年生
1. 大変満足している	9	4
2. まあまあ満足している	16	17
3. あまり満足していない	0	1
4. 全く満足していない	0	0
5. どちらでもない	2	1
6. 無回答	1	0
合計	28	23

『“大変満足,まあまあ満足”と回答した者の理由』

2 年生(13 名からの具体的記載内容)

- 1) 授業が分かりやすい
- 2) 先生の説明がわかりやすい
- 3) 知識がついた(樹木が同定できる)
- 4) 進路の相談ができるから良い
- 5) 疑問に感じる事等いつでも気軽に教えてくださったから
- 6) 編入学のための指導が手厚いから
- 7) 楽しかった
- 8) 分野がたくさんあり, 農業を幅広く学ぶことができ

るから

- 9)就職先で生かせるような内容を学ぶことができた
- 10)実習楽しい
- 11)分からないところなど先生に聞きに行くと分かりやすく説明してくれるから
- 12)分からないことがあっても気軽に先生に聞くことができる
- 13)テスト方式、授業内容

1 年生(17 名からの具体的記載内容)

- 1)資格や編入の情報を詳しく教えてくれるから、実践的な授業を受けられるから
- 2)ほとんどの先生はしっかりとノート等を取るような授業をしてくれる
- 3)高校までの習う専門教科の復習や、今まで聞いたことがない知識が知れるところ
- 4)一般教養や専門などで教科書の内容を深掘して教えてくださるところ
- 5)スライド等資料があつて分かりやすい
- 6)しぼりが無い
- 7)週 1 回の実習が充実しているから
- 8)授業
- 9)スライドや映像が多くて分かりやすい
- 10)実技等に関する深い内容を学べるため
- 11)園芸実習において様々な経験ができたから
- 12)農業分野の授業を受けられるから
- 13)たのしいです毎日
- 14)授業や先生ごとに工夫があり、勉強しやすい
- 15)農業や園芸について学べる点
- 16)友達とコミュニケーションがとりやすい、先生に質問しやすい
- 17)普通

『“あまり・全く満足していない、どちらでもない”と回答した者の理由』

2 年生(1 名からの具体的記載内容(意見重複))

- 1)良いものもあれば、悪いものもあるから

1 年生(具体的記載内容)

特になし

『大分短大への要望について』

2 年生(3 名からの具体的記載内容)

- 1)もっと対策講座の講義がほしい
- 2)実習で園芸療法を 1 年次からやりたかった
- 3)もうちょっと字を大きく書いてほしい

1 年生(4 名からの具体的記載内容)

- 1)たまにスライドのみの時があり、眠くなる
- 2)ときどき、時間がないときに急ぎ足で説明されると理解しづらい
- 3)板書の文字をもう少し大きくしてほしい
- 4)テスト内容の公表をもう少し早くしてほしい

3. 学習成果に関するアンケート

(※各学習成果の項目における結果については「5. 各学習成果項目における学生の習熟度」を参照)

(13)「学習成果についての意識度」に対する回答

1, 2 年生ともに、「あまり意識していない」の回答者数が最も多く、次いで「まあまあ意識している」であった(表 13).

表 13. 学習成果についての意識度は？

選択肢	2 年生	1 年生
1. 強く意識している	1	0
2. まあまあ意識している	7	8
3. あまり意識していない	14	12
4. 全く意識していない	6	3
5. 無回答	0	0
合計	28	23

4. 学生生活に関するアンケート

(14)「平日のアルバイトの状況」に対する回答

1, 2 年生ともに「アルバイトはしていない」の回答者数が最も多かった。1 年生の中には、「毎日」の回答者がいた。アルバイトに従事する割合としては、学年における差は特にみられなかった(表 14).

表 14. 平日のアルバイトの状況は？

選択肢	2 年生	1 年生
1. 毎日	0	0
2. 3~4 日	9	4
3. 1~2 日	4	3
4. アルバイトはしていない	15	16
合計	28	23

(15)「土/日のアルバイトの状況」に対する回答

1, 2 年生ともに「していない」の回答者数が最も多かった。「毎週している」の回答者は、2 年生の方が多かった(表 15).

表 15. 土/日のアルバイトの状況は？

選択肢	2 年生	1 年生
1. 毎週している	8	3
2. 時々	6	7
3. していない	14	13
4. 無回答	0	0
合計	28	23

(16)「アルバイトの目的」に対する回答

2年生は、「生活費」の回答者数が最も多く、次いで「小遣い」と「社会勉強」であった。

1年生は、「小遣い」の回答者数が最も多く、次いで「生活費」であった(表16)。

表16. アルバイトの目的は？(複数選択可)

選択肢	2年生	1年生
1. 学費	2	0
2. 生活費	8	2
3. 小遣い	6	9
4. 社会勉強	6	0
5. その他	1	0
6. していない	11	13
合計	34	24

(17)「平日の睡眠時間は？」に対する回答

1年生および2年生ともに「6～7時間」の回答者数が最も多かった。次いで2年生は「5時間以下」と「5～6時間」であり、1年生は「7～8時間」であった(表17)。

表17. 平日の睡眠時間は？

選択肢	2年生	1年生
1. 5時間以下	6	2
2. 5～6時間	6	3
3. 6～7時間	12	13
4. 7～8時間	3	4
5. 8時間以上	1	1
合計	28	23

○睡眠時間の確保が難しい理由

2年生(10名からの具体的記載内容)

- 1)寝付けない
- 2)やるべきことの取り掛かりが遅く、いつも夜更かしする。アニメ鑑賞のため
- 3)寝つきが悪すぎる。生活が不規則(深夜バイト等)
- 4)バイトが遅くおわる
- 5)時間にルーズだから
- 6)趣味
- 7)テスト, 検定, 資格の勉強があるから
- 8)バイト, 電車
- 9)夜に予定があることもあるが、そのくらい寝れば十分だから
- 10)難しくはないが、最適な睡眠時間だから

1年生(4名からの具体的記載内容(意見重複))

- 1)やらなければならないことを後回しにしている
- 2)自分の生活習慣の悪さ
- 3)夜更かししてしまう
- 4)自主学習の要領が悪く、目標に到達するまで時間がかかってしまうから

(18)「朝食は食べていますか？」に対する回答

1, 2年生ともに「毎日食べる」の回答者数が最も多く、次いで「時々食べる」であった(表18)。

表18. 朝食の摂取状況について

選択肢	2年生	1年生
1. 毎日食べる	11	13
2. 時々食べる	8	8
3. ほとんど食べない	6	1
4. 全く食べない	3	1
合計	28	23

○朝食の摂取が難しい理由

2年生(7名からの具体的記載内容)

- 1)朝は食欲がない
- 2)朝起きるのがギリギリ, 作るのがめんどくさい
- 3)食べる時間があるならねたいから, 生活が不規則(朝寝することもある)
- 4)朝が苦手だから
- 5)たまにバイトの時とかは食べるが, それ以外は別に必要ない
- 6)元々, 朝食は食べない派だから
- 7)朝食を食べる時間を作っていない

1年生(2名からの具体的記載内容)

- 1)やらなければならないことを後回しにしている
- 2)めんどくさい, 時間が無い

(19)「困った時に相談できる存在の有無」に対する回答

1, 2年生ともに「いる」の回答者数も多く、「いない」の回答者が2年生3名, 1年生1名いた(表19)。

表19. 困った時に相談できる人はいますか？

選択肢	2年生	1年生
1. いる	25	22
2. いない	3	1
3. 無回答	0	0
合計	28	23

○困ったときに, どのように解決しているかの理由

2年生(1名からの具体的記載内容)

- 1)自力

1年生(1名からの具体的記載内容)

- 1)周りを見る

(20)「学校生活以外のプライベートは満足していますか？」に対する回答

2年生は「とても満足」の回答者数が最も多く、次いで「まあまあ満足」であった。

1 年生は「まあまあ満足」の回答者数が最も多く、次いで「とても満足」であった(表 20)。

表20. プライベートは充実しているか？

選択肢	2年生	1年生
1. とても満足	15	10
2. まあまあ満足	11	12
3. あまり満足していない	2	1
4. 全く満足していない	0	0
5. 無回答	0	0
合計	28	23

5. 各学習成果項目における学生の習熟度について

当短大がディプロマポリシーに掲げる『大分短期大学の学習成果(10 項目)』の習熟度について調査した(別添資料 2)。

なお、結果については、学習成果の習熟度 10 段階のうち『1～3』の和を「習熟度“低”」、『4～7』の和を「習熟度“中”」、『8～10』の和を「習熟度“高”」とし、習熟度別(小計)人数を基準として報告する。

(21) 学習成果の「一般教養知識」に対する回答

2 年生は、習熟度“8”が最も多く、次いで習熟度“7”の回答者数が多かった。

1 年生は、習熟度“8”が最も多く、次いで習熟度“5, 6, 9”の回答者数が多かった(表 21)。

表21. 一般教養 知識

習熟度	(低)	1	2	3 (中)	4	5	6	7 (高)	8	9	10
2年生 人数	0	0	1	0	3	1	8	11	2	0	
習熟度別(小計)			1				12				13
1年生 人数	0	0	2	1	3	3	3	6	3	1	
習熟度別(小計)			2				10				10

(22) 学習成果の「一般教養技能」に対する回答

2 年生は、習熟度“8”が最も多く、次いで習熟度“7”の回答者数が多かった。

1 年生は、習熟度“7, 8”が最も多く、次いで習熟度“5, 6, 9”の回答者数が多かった(表 22)。

表22. 一般教養 技能

習熟度	(低)	1	2	3 (中)	4	5	6	7 (高)	8	9	10
2年生 人数	0	0	1	0	3	3	7	10	2	0	
習熟度別(小計)			1				13				12
1年生 人数	0	0	3	1	3	3	4	4	3	1	
習熟度別(小計)			3				11				8

(23) 学習成果の「基礎的専門知識」に対する回答

2 年生は、習熟度“7”が最も多く、次いで習熟度“8”の回答者数が多かった。

1 年生は、習熟度“8”が最も多く、次いで習熟度“6, 9”の回答者数が多かった(表 23)。

表23. 基礎的専門 知識

習熟度	(低)	1	2	3 (中)	4	5	6	7 (高)	8	9	10
2年生 人数	0	0	0	0	0	4	10	8	4	0	
習熟度別(小計)			0				14				12
1年生 人数	0	1	1	0	2	3	2	9	3	1	
習熟度別(小計)			2				7				13

(24) 学習成果の「基礎的専門技能」に対する回答

2 年生は、習熟度“8”が最も多く、次いで習熟度“7”の回答者数が多かった。

1 年生は、習熟度“8”が最も多く、次いで習熟度“8, 9”の回答者数が多かった(表 24)。

表24. 基礎的専門 技能

習熟度	(低)	1	2	3 (中)	4	5	6	7 (高)	8	9	10
2年生 人数	0	0	0	0	2	4	7	8	5	0	
習熟度別(小計)			0				13				13
1年生 人数	0	1	1	2	2	2	6	7	0	1	
習熟度別(小計)			2				12				8

(25) 学習成果の「応用的専門知識」に対する回答

2 年生は、習熟度“7”が最も多く、次いで習熟度“6”の回答者数が多かった。

1 年生は、習熟度“6”が最も多く、次いで習熟度“8”の回答者数が多かった(表 25)。

表25. 応用的専門 知識

習熟度	(低)	1	2	3 (中)	4	5	6	7 (高)	8	9	10
2年生 人数	0	0	1	1	2	5	12	2	3	0	
習熟度別(小計)			1				20				5
1年生 人数	0	2	1	1	3	5	3	4	2	1	
習熟度別(小計)			3				12				7

(26) 学習成果の「応用的専門技能」に対する回答

2 年生は、習熟度“7”が最も多く、次いで習熟度“6”の回答者数が多かった。

1 年生は、習熟度“6, 8”が最も多く、次いで習熟度“7”の回答者数が多かった(表 26)。

表26. 応用的専門 技能

習熟度	(低)	1	2	3 (中)	4	5	6	7 (高)	8	9	10
2年生 人数	0	0	1	1	3	5	10	4	2	0	
習熟度別(小計)			1				19				6
1年生 人数	0	2	2	2	2	5	3	5	0	1	
習熟度別(小計)			4				12				6

(27) 学習成果の「社会的基礎知識」に対する回答

2 年生は、習熟度“8”が最も多く、次いで習熟度“9”の回答者数が多かった。

1 年生は、習熟度“8”が最も多く、次いで習熟度“7”の回答者数が多かった(表 27)。

表27. 社会的基礎知識

習熟度	(低)	1	2	3 (中)	4	5	6	7 (高)	8	9	10
2年生 人数	0	0	0	1	1	0	4	11	9	0	
習熟度別(小計)			0				6				20
1年生 人数	0	0	1	1	3	1	4	7	2	3	
習熟度別(小計)			1				9				12

(28) 学習成果の「多様性・協働性」に対する回答

2年生は、習熟度“8, 9”が最も多く、次いで習熟度“7”の回答者数が多かった。

1年生は、習熟度“7”が最も多く、次いで習熟度“9, 10”の回答者数が多かった(表 28)。

表28. 多様性, 協働性

習熟度	(低)	1	2	3 (中)	4	5	6	7 (高)	8	9	10
2年生	人数	0	0	0	0	1	1	5	8	8	3
	習熟度別(小計)	0			7			19			
1年生	人数	0	0	0	1	3	1	7	2	4	4
	習熟度別(小計)	0			12			10			

(29) 学習成果の「主体性・思考力・判断力」に対する回答

2年生は、習熟度“7”が最も多く、次いで習熟度“8”の回答者数が多かった。

1年生は、習熟度“7, 8, 9”が最も多く、次いで習熟度“5”の回答者数が多かった(表 29)。

表29. 主体性, 思考力, 判断力

習熟度	(低)	1	2	3 (中)	4	5	6	7 (高)	8	9	10
2年生	人数	0	0	0	1	2	2	9	7	1	4
	習熟度別(小計)	0			14			12			
1年生	人数	0	1	0	2	3	2	4	4	4	1
	習熟度別(小計)	1			11			9			

(30) 学習成果の「表現力」に対する回答

2年生は、習熟度“6, 7”が最も多く、次いで習熟度“8”の回答者数が多かった。

1年生は、習熟度“5”が最も多く、次いで習熟度“6, 7, 9”の回答者数が多かった(表 30)。

表30. 表現力

習熟度	(低)	1	2	3 (中)	4	5	6	7 (高)	8	9	10
2年生	人数	0	0	0	2	0	8	8	4	2	2
	習熟度別(小計)	0			18			8			
1年生	人数	0	1	0	1	5	4	4	2	4	1
	習熟度別(小計)	1			14			7			

考 察

1. 短大の図書館および5階自習室の利用状況について

図書館については、例年と同様、大半の学生が図書や雑誌の閲覧、ならびにパーソナルコンピューター・インターネット・印刷等での使用や学習のため利用している状況にあり、本来の目的を概ね達成していると考えられる。しかし、少数意見として挙げられる利用しない目的や要望から、今後より利用されやすい環境を目指した改善が求められる。具体的な要望としては、「パソコンの新調」「パソコンの増大」「マウス性能の向上」を望む声があった。これに対しては、既にノート型のパソコンを20台揃えているが、利用の頻度は少ない。今後は学生への周知を図り、満足度の向上に努める。

利用しない理由に挙げられた「人が多い」「うるさい」に対しては、一般的な図書館規程にある静かな環境を提供することが必須だが、当短大は物理的スペースの少なさから学生へのゼミナール研究等に使用される場としても利用している。周囲の学生への理解を深めるとともに、その場の状況に応じた5階自習室の利用を併用する等の促しを行う必要がある。

5階自習室については、学年で違いがみられた。1, 2年生ともに半数以上が利用していない状況にあった。利用しない理由として、「5階まで上がるのが大変」「使っていないかわからない」「鍵がかかっているから」「存在を認識していなかった」等が挙げられた。5階自習室の存在の認知は高まっている状況にあるが、使用に際し、手順(鍵の貸し借り, 報告)が必要であることや認識不足の問題が大きいと推察する。

2. 授業の予習と復習の状況について

予習および復習について、「毎回している」および「ときどきしている」と回答した学生は、過去の回答では半数に満たない状況が続いていたが⁶⁾、昨年度より、同数あるいは半数を超えて予習と復習に取り組んでいる状況があった。編入学希望の学生が割合として増加した結果ではないかと推察した。

取り組まない理由に挙げられる「授業による。前回内容が分からなかったら取り組んでいる」「しようと思っただけで予習する必要がない」「家で勉強をしない」等については、例年みられる多い意見で、これらは学生自身に問題があると考えられる。

一方、次に挙げる予習および復習についての意見については、教員側の問題として対処すべき内容であり、早急に改善が必要な事項である。予習および復習における改善の余地がある意見として、「課題が出てる訳でもないから性格上取り組もうと思わないため」

「次の範囲が分からない」「何したらよいか分からない」等については、各教員が作成するシラバスの充実や、各講義における工夫によって解消を目指す必要がある、引き続き取り組む必要がある。

勉強時間については、学年による違いが窺える。両学年とも平日の勉強時間は、2年生で「1~2時間」が最も多く、1年生は「1~2時間」ならびに「1時間以下」が最も多かった。休日の勉強時間は2年生「2~3時間」に対して、1年生「1~2時間」が最も多かった。2年生は平日の勉強時間よりも増加しているが、元々取り組む時間が少ない現状にあるため、引き続き促しが必要であると考えられる。また、1年生は、全体的に勉強に充てる

時間が少ない現状にあり、2年生同様に促しを強化する必要がある。

学習における情報源については、例年と同様2学年ともに大半の学生がインターネットから情報を得ていた。より深い知識の修得には研究などの文献を読む習慣をつけさせる必要がある。また、幅広い情報を収集するために書籍や新聞等、情報収集の手段を増やすよう指導が必要である。次年度以降は、学生に対する希望購入図書についてアンケートを行う等の対策を通じ、情報源の拡大を図りたい。

3. 大分短大の授業の難しさについて

2年生は「あまり難しくはない」との回答が最も多く、次いで「まあまあ難しい」の結果であり、1年生は2年生の逆転した結果となった。短大で開講する水準としては、両極端な結果とはならず、学生にとっては丁度良い水準での講義内容を提供していると考えられる。

難しいと感じさせる要素としては、具体的に難しい科目や領域については、例年と同様の科目が挙げられており、その科目特有の性質が難しさを感じさせていると考えた。

4. 夏休み中(長期休暇)の編入/公務員講座について

1年生の参加率が高く、2年生は参加率が低い状況にあった。従来は、“教養演習”を履修する学生に必須で受講を促してきたが、参加は乏しかった。昨年度より参加の意志を学生に問い、自ら受講する講義を選択形式に変更した。その結果責任が生まれ、参加率が徐々にではあるが上昇傾向にあると感じる。引き続き次年度以降も検証していく。

5. 夏季休暇中の学習時間について

2年生においては「1時間以下」ならびに「全くしなかった」の回答が最も多く、勉強に取り組んでいない状況が見受けられた。中には積極的に取り組む学生もあり、状況は二極化していた。

1年生においては、対策講座に参加に加えての学習時間であることから、学習面では意欲的に取り組んでいる様子が窺えた。

両学年とも、取り組み内容については各学生の状況に合わせて優先順位、時間の使い方等の指導を行っていきたい。

例年のことではあるが、長期休暇の傾向として念頭に置いておかなければならない事項がある。就職希望学生の夏休みの過ごし方については個人差があり、そ

の指導は各ゼミナール教員に一任されている。夏季講座の中には、就職した後、社会人として必要となるスキルを養成する内容の講座も開講されている。また、夏季休暇中は、技能士などの国家試験対策が行われている過密なスケジュールであるが、各教員からの促しを強化し、編入学希望以外の学生に対する支援が必要であると考ええる。

6. 大分短期大学の教育全体に対する満足度について

例年の調査結果と同様に、概ね満足していると考えられる。理由として、「授業が分かりやすい」「知識がついた(樹木が同定できる)」「進路の相談ができるからよい」「疑問に感じることもいつでも気軽に教えてくださったから」「編入学のための指導が手厚いから」「授業や先生ごとに工夫があり、勉強しやすい」等、多くの意見として教職員の対応が満足の原因として挙げられた。少人数ゼミナール制による教員の手厚いサポートは、当短期大学の強みであると考えられる。また、本学の強みである専門領域の広さについても学生の満足度を上昇させる要素の一つであることが分かった。

一方、「あまり満足していない」の回答が1名挙げられた。その理由として「良いものもあれば悪いものもあるから」であった。講義内容についてなのか教員の対応についてなのか、原因は特定できなかったが、意見や回答者数を昨年度と比較すると、満足度は上昇していると考えられる。

7. 学生生活について

○アルバイトについて

アルバイト(平日もしくは土日)をしている学生は、1年生10名程度、2年生14名程度であった。1年生は4割、2年生の約半数が従事していることが分かった。

アルバイトをする理由として、経済的理由から「生活費」と「小遣い」に集中していた。例年、奨学金の申請者が多いことと合わせて考えると、学生らが置かれている経済的状況が厳しくアルバイトに従事せざるを得ないと推察される。学業との両立ができていないか、各担当教員が把握しておく必要がある。特に卒業が危ぶまれるようなリスクの高い学生については、介入することが必要である。

○学生の睡眠時間について

睡眠時間については、例年通り1年生より2年生の方が睡眠時間を確保していない状況にあった。理由と

しては、アルバイトに加え、アニメ鑑賞や趣味等の要素が挙げられていた。各個人における時間の使い方の問題である一方で、寝付けない等の背景に睡眠障害が疑われるような問題までであると推察される。個別対応として学習面と同様に、健康面にも留意すること、状況によっては病院の受診を促すケースも可能性として対応できるようにしておく必要があると考える。

○朝食の摂取状況について

両学年とも「毎日食べる」および「時々食べる」と回答した者が多かった。

一方、2年生では「ほとんど食べない」および「全く食べない」と回答した者が1/3程度いた。この理由として「朝は食欲がない」「食べる時間があるなら寝たい」「朝が苦手」「元々朝食は食べない派だから」等が挙げられた。食欲に関する問題については、“睡眠時間”と同様に、医学的問題を抱えているケースも予測されるため、そのサインを見逃さないように、教員側の面接スキルや学生との信頼関係の構築などが必要である。

全体としては、昨年に続いて比較的朝食を摂取している割合は高かったが、過度なアルバイト、睡眠不足や朝食の非摂取などが複雑に絡んで学習面にも影響していると推察できるため、本学の教員は、引き続き、学修面に加え生活面も含めた包括的なサポートを意識し、学生を指導していくことが重要であると考えられる。

8.相談者の有無について

1年生は「いない」と回答した者は1名、2年生は3名であった。学生個人が困難な状況に晒された際、支えとなる存在がないという危険な状況があることが危惧される。解決方法においても「自力」といった回答であったことはさらなるリスクであると想定される。既に担当教員が認識しているケースであれば引き続きの体制で良いと考えるが、そうでないケースであった場合に備え、常々教員間で学生に関する動向で不審な発言や行動がないかについて共有し、リスク回避に努めることが重要であると考えられる。

9.学習成果の修得状況について

修得状況を学年別に比べると、2年生の“習熟度高”の割合が多い学習成果は、「一般教養知識」「基礎的専門技能」「社会的基礎知識」「多様性、協働性」であった。次いでその他の学習成果では“習熟度中”の割合が高く1年生と比べても習熟度は高い印象を受ける。1年生の“習熟度高”の割合が多い学習成果は、「基礎的専

門知識」「社会的基礎知識」の2項目であった。次いでその他の学習成果では2年生同様に“習熟度中”の割合が高かった。

2年生の方が習熟度が高かった結果については、専門科目を履修したことに加え、卒業時の調査ということもあり、教示内容全体を把握しているかの差も現れていると考える。

学習成果については、引き続き、学生自身による授業評価や学習成果の習得状況を把握する機会を設ける頻度を増やすことで、学生にとって“自分ごと”として捉えられるよう働きかけていく。

今後もデータを蓄積することで、経年での比較評価をしていきたい。

引用・参考文献

- 1) 摺崎 宏(2016). 平成 27 年度 大分短期大学生の学習・生活実態調査結果報告. 大分短期大学研究紀要第 15 号. p31-41.
- 2) 小石鉄兵(2017). 平成 28 年度 大分短期大学生の学習・生活実態調査結果報告. 大分短期大学研究紀要第 15 号. p42-53.
- 3) 小石鉄兵(2018). 平成 29 年度 大分短期大学生の学習・生活実態調査結果報告. 大分短期大学研究紀要第 16 号. p21-33.
- 4) 小石鉄兵(2019). 平成 30 年度 大分短期大学生の学習・生活実態調査結果報告. 大分短期大学研究紀要第 17 号. p26-42.
- 5) 小石鉄兵(2020). 令和 1 年度 大分短期大学生による短期大学士力修得の自己評価. 大分短期大学 研究紀要第 18 号. P44-46.
- 6) 小石鉄兵(2020). 令和 1 年度 大分短期大学生の学習・生活実態調査結果報告. 大分短期大学研究紀要第 18 号. p29-43.
- 7) 小石鉄兵(2021). 令和 2 年度 大分短期大学生の学習・生活実態調査結果報告. 大分短期大学研究紀要第 20 号. p22-37.
- 8) 小石鉄兵(2022). 令和 3 年度 大分短期大学生の学習・生活実態調査結果報告. 大分短期大学研究紀要第 21 号. p15-27.
- 9) 独立行政法人 大学評価・学位授与機構(2017). 平成 28 年度 第三者評価の機関別評価.

別添資料1 学修に対する質問項目

大分短期大学生の学習、学生生活に関するアンケート

(調査の目的)

学年()

大分短期大学生の学習意識や学習に関する実態、生活実態を把握し、今後の教育改革ならびに
修学指導に資する基礎資料を得ることを目的とする

質問に対する回答番号を右側に書いて下さい。

•短大の図書館および5F自習室を利用しますか？(それぞれ記載) [図書館] [5F自習室]

1. 頻りに利用する
2. ときどき利用する
3. 利用しない

※1, 2と回答した方 図書館利用の目的をお書きください。また、図書館を利用に際し、要望があればお書きください。
(理由) (理由)
(要望) (要望)

※3と回答した方 図書館利用をしない理由をお書きください。また、図書館を利用に際し、要望があればお書きください。
(理由) (理由)
(要望) (要望)

•普段、授業の予習をしていますか？ []

1. 毎回している
2. ときどきしている
3. あまりしていない
4. 全くしていない

※1, 2と回答した方 予習の内容は主に次のうちのどれに当てはまりますか？丸で囲んでください。
a. 授業の課題(アクティブラーニング含む) b. 次回授業の予習 c. その他()

※3, 4と回答した方 予習に取り組まない理由は何ですか？また、どうすれば予習が出来ると思いますか？
(理由)
(改善案)

•普段、授業の復習をしていますか？ []

1. 毎回している
2. ときどきしている
3. あまりしていない
4. 全くしていない

※1, 2と回答した方 復習の内容は主に次のうちのどれに当てはまりますか？丸で囲んでください。
a. 授業の課題(アクティブラーニング含む) b. 次回授業の予習 c. その他()

※3, 4と回答した方 復習に取り組まない理由は何ですか？また、どうすれば復習が出来ると思いますか？
(理由)
(改善案)

•予習と復習をあわせた平日の勉強時間は？ []

1. 4時間以上
2. 3~4時間
3. 2~3時間
4. 1~2時間
5. 1時間以下
6. 全くしていない

•予習と復習をあわせた休日の勉強時間は？ []

1. 4時間以上
2. 3~4時間
3. 2~3時間
4. 1~2時間
5. 1時間以下
6. 全くしていない

•レポート課題などの調べものをするときの情報源は？ []

1. 教科書や参考書
2. インターネット
3. 教員
4. 友人や先輩
5. その他()

•学習のためにインターネットを1日何時間くらい利用しますか？ []

1. 2時間以上
2. 1~2時間
3. 1時間以内
4. 全く利用しない

•短大の授業は難しい？ []

1. とても難しい
2. まあまあ難しい
3. あまり難しくはない
4. 全く難しくない

※1, 2と回答した方 特に難しいと思われる科目はありますか？あれば列挙してください。

•夏休み中の編入/公務員講座に参加しましたか []

1. すべて参加した
2. ほぼ参加した
3. まあまあ参加した
4. ほとんど参加しなかった
5. 全く参加しなかった
6. 参加する予定はなかった

•夏休み中の編入/公務員講座以外の自主学習について []

1日あたりの学習時間は？(資格取得のための勉強時間は除く)

1. 4時間以上
2. 3~4時間
3. 2~3時間
4. 1~2時間
5. 1時間以下
6. 全くしていない

※学習した内容についてお聞きます。主にどのような目的で学習しましたか？○印でチェックしてください(複数可)
a. 編入学試験に向けて b. 公務員試験に向けて c. 就職に向けて d. 資格取得に向けて
e. 授業科目の習熟に向けて f. その他()

•大分短大の教育全体の満足度は？ []

1. 大変満足
2. まあまあ満足
3. あまり満足していない
4. 全く満足していない
5. どちらでもない

※主にどのような点についての回答か理由をお書きください。また、学習面で短大への要望があればお書きください。
(理由)
(要望)

別添資料2 学修および生活に対する質問項目

- ・“学習成果”について、普段、どのくらい意識していますか？ []
1. 強く意識している
 2. まあまあ意識している
 3. あまり意識していない
 4. 全く意識していない

・学習成果の修得状況についてお聞きします。該当する状況1～4を選択し書いて下さい。

※入学～現時点までを最高の“10”とし、修得状況について自己評価して○でチェックしてください。
(見間違えないように、丁寧に囲んでください)

1. 社会科学と自然科学に関する基礎的な技能を修得している(一般教養知識) [1 2 3 4 5 6 7 8 9 10]
2. 社会科学と自然科学に関する基礎的な技能を修得している(一般教養技能) [1 2 3 4 5 6 7 8 9 10]
3. 専門分野に関する基礎的な知識を修得している(基礎的専門知識) [1 2 3 4 5 6 7 8 9 10]
4. 専門分野に関する基礎的な技能を修得している(基礎的専門技能) [1 2 3 4 5 6 7 8 9 10]
5. 専門分野に関する応用的な知識を修得している(応用的専門知識) [1 2 3 4 5 6 7 8 9 10]
6. 専門分野に関する応用的な技能を修得している(応用的専門技能) [1 2 3 4 5 6 7 8 9 10]
7. 倫理観や社会的責任など生活や仕事に必要な基礎知識を修得している(社会的基礎知識) [1 2 3 4 5 6 7 8 9 10]
8. 多様な他者を理解し協調・協働して課題に取り組むことができる(多様性・協働性) [1 2 3 4 5 6 7 8 9 10]
9. 自ら課題を立て、課題解決に向けて計画し取り組むことができる(主体性・思考力・判断力) [1 2 3 4 5 6 7 8 9 10]
10. 他者にわかりやすく且つ的確に物事を伝えることができる(表現力) [1 2 3 4 5 6 7 8 9 10]

・平日のアルバイトの状況は？ []

1. 毎日
2. 3～4日
3. 1～2日
4. アルバイトはしていない

※1、2、3を選択された方は、アルバイトの1回あたりの平均時間を記入してください。

平均 () 時間程度

・土/日のアルバイトの状況は？ []

1. 毎週している
2. 時々している
3. していない

※1、2、3を選択された方は、アルバイトの1回あたりの平均時間を記入してください。

平均 () 時間程度

・アルバイトの目的は？ []

1. 学費
2. 生活費
3. 小遣い
4. 社会勉強
5. その他()

・あなたの平日の睡眠時間は？ []

1. 5時間以下
2. 5～6時間
3. 6～7時間
4. 7～8時間
5. 8時間以上

※1、2と回答された方に質問です。睡眠時間の確保が難しいと思われる理由についてお書きください。

・朝食は食べていますか？ []

1. 毎日食べている
2. 時々食べないことがある
3. ほとんど食べない
4. まったく食べない

※3、4と回答された方に質問です。睡眠時間の確保が難しいと思われる理由についてお書きください。

・学校や私生活において、困ったことがある時に、誰か相談できる人がいますか？ []

1. いる
2. いない

※1と回答された方に質問です。あなたにとって、どのような関係性にある人ですか？
a. 親 b. 兄弟 c. 友人 d. 教員 e. その他()

※2と回答された方に質問です。困った時には、どのように解決していますか？
(解決策)

・学校生活以外のプライベートは満足していますか？ []

1. とても満足している
2. まあまあ満足している
3. あまり満足していない
4. 全く満足していない

編集委員

委員長 小石 鉄兵

大分短期大学研究紀要 第22号

令和5年8月31日発行

発行者 大分短期大学

〒870-8658 大分市千代町3丁目3-8

印刷所 (株)エポックアート

〒870-0942 大分市羽田984番地の1

Research Bulletin
of
Oita Junior College of Horticulture
Vol.22 August, 2023

Contents

Research Paper

MATAKAZU KAGIWADA

Graduate questionnaire result in 2022 1

YUKI HASHIMOTO, NOBUYUKI ONO

Student Evaluation of Teaching in 2022 6

TEPPEI KOISHI

Learning and living conditions of students in OITA JUNIOR COLLEGE in Fiscal 2022 15

Published
by
Oita Junior College of Horticulture
3-3-8, Chiyomachi, Oita, Japan